

四万十市産業振興計画 アクションプラン進捗管理シート

【令和6年度（下半期）】

1	連携分野	・・・・・・・・・・	1
2	農業分野	・・・・・・・・・・	9
3	林業分野	・・・・・・・・・・	15
4	水産業分野	・・・・・・・・・・	19
5	商工業分野	・・・・・・・・・・	22
6	観光分野	・・・・・・・・・・	26

分野	連携テーマ		R 6 年度の取り組み状況 （数量的に見える形で具体的に記載）	主な事業主体	定量的な目標 到達点（R 6） 実績（直近）	備考 （定性的な目標、課題など）	令和 7 年度当初予算（取り組み）概要	
	施策							
	アクションプラン							
	主な内容							
連携分野								
分野	1 地産地消の促進							
	1. 地域産品の利用と販売促進							
	【連携AP 1】 (1) 地域産品の利用と販売促進							
	○地元消費拡大フェアの開催 《農業14、林業15、水産12、商工 4》		○地域商社「㈱西土佐ふるさと市」を核とした地域創造事業 ・ 毎月の広報誌により旬な食材等 P R	四万十市 （農林水産課・観光商 工課・産業建設課） 関係団体・組織 事業者 生産者	◆産業祭来場者数 H30:20,000人 → R 6:40,000人/5 年 H31:3,000人、R 2 中止 R 3:中止 R 4:10,000人 R 5:2,000人 ※H31、R5は西土佐産業祭 ◆学校給食への市内農産物 （野菜類）の供給率 H30:39.18% → R 6:50% R 2:36.9% R 3:33.2% R 4:36.7% R 5:33.7% ◆市産材利用促進事業の着 工件数 H27-H30平均:27.3戸/年 → R 6:30戸/年 R 2:32戸/年 R 3:25戸/年 R 4:31戸/年 R 5:31戸/年	◆地域産品への関心と利用意識が高 まっている	【農業分野】 ○農産物ブランド化事業（しまんと農法米普及促進） ・ 東京・大阪での物産展・販売会等に参加 ○西土佐地域地産地消推進協議会の開催 ・ 公共施設への食材提供、地元食材の利用拡大 について協議 【林業分野】 ○四万十ヒノキブランド化推進協議会負担金 200千円 ○幡多地域森づくり推進センター負担金 5,190千円 ・ 集積計画（案）の作成、森林整備（間伐等）事 業費の積算、仕様書作成 ○市産材利用促進事業 20,000千円 ・ 補助金年間利用件数見込み:20件 ○宿泊体験型モデルハウス管理費 318千円 ・ 「四万十ヒノキの家」の見学、宿泊体験実施 ○フェア等の開催 ・ 「幡多山もりフェス2025」開催支援 【商工業分野】 ○地産外商促進事業（西土佐地域出店関係） 771千円 ・ ふるさとまつり、枚方物産展、旭川マルシェ等	
	○地元農畜産物の公共施設での利用促進 《農業14、18》		○西土佐地域産業振興推進協議会（毎月開催） ・ ナスフェス（8 月:道の駅）で米ナスメニュー P R					
	○有機農産物の流通促進 《連携 8、農業16》		・ 西土佐地域12店舗で米ナスメニューの普及 （ガブッと米ナスキャンペーン 8 月～9 月）					
	○木造住宅建築への支援《林業14》		・ しまんと西土佐あゆフェス（6 月:道の駅）で鮎の食べ方 P R					
	○木材流通ネットワークの構築とコーディネート組織の設立 《林業13、14》		・ H P での情報発信 ・ 西土佐うまいもの商店街（10月）					
	○木造化、木質化への情報発信、普及・啓発の強化 《林業15》		○西土佐地域地産地消推進協議会（6 月、2 月） 公共施設への供給体制整備と年間計画の策定					
	○林地残材等の搬出の促進 《林業16》		○市産材利用促進事業 申請件数:23件（見込）					
○木質バイオマスボイラー等の普及促進 《林業17》		○「四万十ヒノキの家」での見学・宿泊体験の実施 宿泊者:64組、延べ289人 見学者:147人（12月末現在）						
○漁協の販売機能の強化 《連携 8、水産11》		○林地残材の搬出促進 バイオマス証明書発行 4 件 ○フェア等の開催・参加 ・ 「幡多山もりフェス2024」開催支援						
【連携AP 2】 (2) 地域産品の販売拠点づくり								
○市内量販店等を拠点とした販路拡大 《農業14》		○商店街等活性化事業（モデル事業） 土佐中村一條公家行列「藤まつり」開催（5 月） （実施主体:中村商工会議所）	四万十市 （企画広報課・農林水 産課・観光商工課・産 業建設課） 関係団体・組織 事業者 生産者	◆商店街通行者数（平日） H27～H30平均:5,338人/日 →R 6:6,200人/日 R 2:5,824人/日 R 3:4,743人/日 R 4:4,359人/日 R 5:5,859人/日 ◆農林水産物等直販所販売 額 H29:13億1,200万円 → R 6:15億円 H31:13億4,800万円 R 2:11億9,800万円 R 3:12億1,700万円 R 4:12億5,200万円 ◆道の駅「よって西土佐」 入込客数 H30:18万6,924人 → R 6:20万人 R 2:15万6,012人 R 3:16万1,182人 R 4:17万3,517人 R 5:17万4,725人	◆市内の様々な販売拠点において、地域産品の利用、販売が促進されている。 ◆地域内外へ大宮米の認知度向上や販路拡大に向け、イベント出店やふるさと納税等に積極的に取り組む。	【商工業分野】 ○商店街活性化モデル事業（中村商工会議所） 900千円 ・ 公家行列及び地域産品の販売PRを支援 ○商店街活性化補助金（各商店街振興組合） 500千円 ○中心市街地にぎわい拠点施設維持管理事業 2,755千円 ・ 公共部分（公園・トイレ）に係る維持管理費を補助 ○地域おこし協力隊経費（中心市街地活性化 1 名） 4,378千円 ○新食肉センター整備推進事業 220,567千円 ・ 新食肉センター整備補助金 4,383千円 ・ 一般社団法人四万十食肉公社への負担金 5,426千円 ・ 一般社団法人四万十食肉公社への基金拠出（出資金） 26,000千円 ○地域おこし協力隊経費 （西土佐商工会:地域活性化 1 名） 4,743千円 ★地域おこし協力隊経費（市場活性化 1 名） 4,888千円 ○地域おこし協力隊経費 （BBQ普及推進 1 名） 4,348千円 ○よさこい四万十事業費補助 1,500千円		
◎新たな拠点（旧土豫銀行跡地）による情報発信の強化と賑わいの創出 《連携 8、商工10》		○商店街等活性化事業 商店街振興組合イベント（納涼祭等）開催支援（8 月） （実施主体:天神橋・東下町・中村一条通 各商店街振興組合）						
○拠点施設間での連携 《商工10》		○中心市街地にぎわい拠点施設維持管理事業 （実施主体:四万十にぎわい商店株式会社）						
○直販所の拠点機能の強化 《農業15》		○中心商店街等活性化事業 ・ 拠点施設を核とした商店街活性化の協議（毎月） ・ 商店街広報誌作成						
◎道の駅「よって西土佐」の機能拡充 《連携 8、農業15、商工18》		・ 活性化イベント はれのばマルシェ（4 月、6 月、8 月、10 月、12 月、2 月予定） （実施主体:四万十にぎわい商店株式会社）						
○拠点ビジネスの推進 《商工18》		・ 活性化イベント 中心商店街スタンプラリー（11 月） （実施主体:四万十市商店街振興組合連合会女性部）						
○新食肉センターの整備・新食肉センターを核とした地域産業の振興 《商工 5》		○地域おこし協力隊事業 ・ 商店街リーダー育成、啓発 リーダーシップセミナー開催（12月、1 月、2 月） マーケティングセミナー開催（1 月、2 月）						
		○よさこい四万十開催（9 月） ○しまんとリバーベキュープロジェクト ・ 道の駅よって西土佐、星羅四万十を拠点とした取組の推進 ・ J B B Q A 初級検定、クッキングクラス講習（9 月） ・ J B B Q A 中級検定（10月） ・ ジャッジクラス講習、S C A A ステーキコンテスト（12月） ・ O N S E N ガストロノミーウォーキング（3 月）						

分野			R 6 年度の取り組み状況 〈数量的に見える形で具体的に記載〉	主な事業主体	定量的な目標 到達点（R 6） 実績（直近）	備考 （定性的な目標、課題など）	令和 7 年度当初予算（取り組み）概要
連携テーマ							
施策							
アクションプラン							
主な内容							
連携分野							
			○集落活動センター事業（大宮集落活動センターみやの里） 4 月～ 軽食・配食サービス、弁当販売（加工販売部会） ・大宮米の外商拡大：アドバイザー導入（5/16）、 ふるさと納税（R4.8月～）、都市圏の販売計画 ○直販所の拠点機能強化 ・JAグリーン：販促活動の強化（販促チラシ、イベント開催（2 回）） ○新食肉センター整備推進事業 ・関係自治体・団体等で構成する検討会（4 月、6 月、7 月） ・一般社団法人四万十食肉公社設立（7 月） ・事業者選定プロポーザル公告（8 月） ・関係自治体にて関連予算の成立（9 月、10 月） ・関係自治体との整備費負担割合等の協定締結（10 月） ・四万十食肉公社へ職員派遣（11 月） ・事業者選定プロポーザル二次審査、事業者非選定（11 月） ・概算事業費のサウンディング調査等の実施（12 月～2 月） ・関係自治体との整備費負担について再協議（3 月）		◆大宮米販売実績 R 2：4,775,720円 R 3：4,687,835円 R 3：4,687,835円 R 4：4,397,969円 R 5：7,128,488円		
2 地産外商の推進							
1. 商品開発と磨き上げ							
【連携AP3】 (1) 地元農畜産物を使った商品開発							
		○戦略品目のブランド化 《農業16》 ◎40010日プロジェクト 《農業16》 ★新食肉センター整備に伴う養豚場の 整備促進 《農業16》 ★四万十牛を核とした西土佐地域の産 業振興 《農業16、商工18、観光4》 ○地元農畜産物を使った商品の開発 《農業17》 ○意欲的な生産者への支援 《農業17》	○ぶしゅかん産地化・普及推進事業 ・ぶしゅかん産地化推進業務委託（四万十ぶしゅかん生産者組合） ・地域おこし協力隊（通年：販促・PR業務など） ・新規定植（苗代への補助） ・有害鳥獣対策用防護柵（設置費補助） ○ぶしゅかん栽培現地検討会・目慣らし会（8月22日） 栽培管理指導、巡回指導等、植え付け・剪定講習会（2月15日予定） ○四万十ぶしゅかん(株)を主体に各種商談会、展示会、物産展等での販路開拓・販売促進 活動を展開 ・仲卸会社（東京）、製薬会社（東京）、市内旅館等 ○ぶしゅかん生産量の把握 ・市内栽培面積、生産量の把握、青玉の流通 ○栗暮プロジェクト ・西土佐橘地区栗実証農園運営（農業公社へ運営委託） ・水田転換推進業（排水対策工事） 計画：0.6ha（2 月末時点0.05ha） ・新改植推進事業（苗木補助） 計画：1,100本（2 月末時点186本） ○露地作付面積日本一米ナスを活用した地域活性化事業 （西土佐地域産業振興推進協議会） ・HPでの情報発信 ・産地としての競争力強化と販路拡大（JA との連携） ○しまんと100年 40010日プロジェクト ・しまんと農法米普及促進 ・具同小学校・利岡小学校でしまんと農法米の学習等 具同小学校 四万十清流保全基金寄付金贈呈式 ・酒米吟の夢 しまんと農法米参入 ・東京都での催事出展 東京アンテナショップ試食会開催 ・しまんと農法米（JA ・富山酒米生産部） 四万十清流保全基金寄付金贈呈式 ・枚方友好・交流都市物産展 出展 ・大阪府での催事出展 関西アンテナショップ試食会開催 ・協同組合フェスタ（高知市）出展 ○道の駅よって西土佐での商品開発推進（(株)西土佐ふるさと市） バーベキュー関連商品 他	四万十市 （農林水産課・観光商 工課・産業建設課） JA 高知県 事業者 生産者	◆ぶしゅかん新植面積 H30:10.9ha → R 6 :25ha R 2:13.0ha R 3:13.6ha R 4:14.9ha R 5：15.1ha ◆ぶしゅかん生産量 H30:28.1t → R 6 :81t R 2:26.7t R 3：29.1 t R 4:19.7 t R 5 :40.5 t R 6 :21.7t ◆ゆず栽培面積 H30:44.0ha → R 6 :45ha R 2:44.1ha R 3:44.1ha R 4:44.1ha R 5 :44.1ha ◆ゆず生産量 H27-H30平均:431.5t/年 → R 6 :445t R 2:541.0t R 3:558.0t R 4:476.4t R 5：639.4t ◆栗栽培面積 H30:48ha → R 6 :60ha R 2:52.2ha R 3:55.0ha R 4:58.6ha R 5 :60.2ha R 6 :61.0ha ◆栗生産量 H27-H30平均:23.5t/年 R 2:18.3t R 3:21.0t R 4:17.2t R 5 :18.0t R 6 :15.5t ◆米ナス栽培面積 H30:504a → R 6 :490a R 2:452a R 3 :434a R 4 :406a R 5 :350a R 6 :335a	◆四万十ブランドの確立や加工商品開 発による高付加価値化が図られ、安定 した農業経営につながっている	【農業分野】 ○ぶしゅかん普及推進事業 1,150千円 ・新規定植（苗代への補助） 900本 180a ・有害鳥獣対策用防護柵（設置費補助） 100m ・産地化推進事業業務委託 ○ぶしゅかん生産量の把握 — ・市内栽培面積、生産量の把握、青玉の流通 ○四万十ぶしゅかん(株)を主体に商談会等へ参加 237千円 ○農産物ブランド化事業（しまんと農法米普及促進） 【512千円】 ・東京・大阪での物産展・販売会等に参加 【再掲】 ・アンテナショップを活用し試食販売会等を実施 ○道の駅よって西土佐での商品開発推進 — （実施主体：(株)西土佐ふるさと市） ○栗暮プロジェクト 【1,064千円】 ・栗園モデル事業、苗木補助、平場新植推進 【商工業分野】 ○道の駅よって西土佐での商品開発推進 — （実施主体：(株)西土佐ふるさと市） ○露地作付面積日本一米ナスを活用した地域活性 化事業（西土佐地域産業振興推進協議会） — ・販促、広告宣伝等実施

分野		R6年度の取り組み状況 〈数量的に見える形で具体的に記載〉	主な事業主体	定量的な目標 到達点（R6） 実績（直近）	備考 （定性的な目標、課題など）	令和7年度当初予算（取り組み）概要
連携テーマ	施策					
	アクションプラン					
	主な内容					
連携分野						
	〇テストマーケティング《商工1》 〇商品の品質、ラベル等の磨き上げや表示の適正化 《商工1》 〇新たな商品・サービス等の企画・開発支援 《商工3》 〇地域ならではのアイデア、資源を活かした商品開発 《商工16》	〇西土佐地域産業振興推進協議会（毎月開催）【再掲】 ・ナスフェス（8月：道の駅）で米ナスメニューPR ・西土佐地域12店舗で米ナスメニューの普及（ガブッと米ナスキャンペーン8月～9月） ・しまんと西土佐あゆフェス（6月：道の駅）で鮎の食べ方PR ・HPでの情報発信 ・西土佐うまいもの商店街（10月） 〇特産品等販売促進事業（商談会出展） ・市内特産品販売促進のため、大規模商談会へ出展支援 2月 グルメショー（東京都） 〇産業振興推進総合支援事業費補助金 地元食材を活用した加工品の開発 実績：1件 454千円 〇物価高騰対策販路拡大支援事業費補助金（商談会出展補助金） 実績：2件 500千円				〇地域おこし協力隊経費 西土佐地域：須崎（ホテル星羅四万十） 大宮（1名） 〇特産品等販売促進事業（商談会等出展） ・大規模商談会等へ出展支援等（2,183千円） グルメショー春、シーフードショー、ライフスタイルweek出展 グルメショー秋、関西圏商談会出展 れんけいこうちを活用 〇販路拡大支援事業 物価高騰対応地方創生臨時交付金を活用 〇産業振興推進総合支援事業費補助金 地元食材を活用した加工品製造の施設整備 3,500千円 〇地域おこし協力隊経費【再掲】 （西土佐商工会：地域活性化1名） 4,743千円 〇あゆを活用した地域活性化事業 （西土佐地域産業振興推進協議会） 商工会関連補助金を活用し情報発信強化、利用促進等実施
	【連携AP7】 (5) 滞在型の観光商品づくり					
	〇観光マーケティングリサーチ 《観光1》 〇観光商品としての検証と磨き上げ 《観光2》 〇観光商品づくり研修会等の開催 《観光3》 〇異業種連携の強化 《観光3、14》 〇周遊観光プランの造成・発信及び販売 《観光5》	〇滞在型の観光地づくり（実施主体：四万十市観光協会） ●地域の観光資源、フィールドを活かした滞在型の観光商品づくり ・観光動向調査（4月～12月） 観光協会案内所：8,518人（内外国人2,929人） ・修学旅行レンタサイクル受入（2件） ・阪急交通社5連泊商品オプション提案（6件）（受入人数 53人） ・クラブツーリズムレンタサイクル受入（1件） ★県観光キャンペーン「どっぶり高知旅」との連携 ・オススメどっぶり高知旅コンテストへ応募（7素材） （四万十市観光協会の「レンタサイクルを活用した自由な四万十川 四万十市内散策」コンテンツが幡多地域エリアで1位） ・商品造成エリアへ応募（田出ノ川地区） エリア選定を受け、今後関連団体と商品開発を行う ・周遊促進・滞在延長支援事業費を活用 （実施主体：四万十市観光協会） 事業名：四万十川川バス周遊促進事業（2,010千円） ●広域連携による周遊観光の推進 ・広域観光クラスター整備計画（SDGs）（継続） 〇ONSEN・ガストロノミーウォーキング（実施主体：四万十市観光振興連絡協議会） 食、歴史・文化、四万十川の景観を楽しく体感する新しい旅のスタイルの提案 ・「ガストロノミー賞」受賞（令和4年度実施） ・令和7年3月8日開催 〇四万十川を活用した魅力向上事業補助金 （実施主体：四万十市観光振興連絡会議） ◇花と食をテーマとした観光イベント（四万十川花紀行等）の開催、検証等 ①香山寺 ：藤 （4月中旬～下旬） ②トンボ自然公園 ：睡蓮 （4月下旬～10月中旬） ③大宮 ：バラ （5月中旬～下旬） ④トンボ自然公園 ：花菖蒲（5月下旬～6月上旬） ⑤数ヶ市 ：ユリ （5月下旬～6月下旬） ⑥安並水車の里 ：紫陽花（5月下旬～6月上旬） ⑦入田ヤナギ林 ：曼殊沙華（9月下旬～10月上旬） ⑧黒尊溪谷 ：紅葉 （11月中旬～下旬） ⑨入田ヤナギ林 ：菜の花（2月下旬～3月中旬） ⑩為松公園 ：桜 （3月下旬～4月初旬） ⑪入田桜つつみ公園 ：桜 （3月下旬～4月初旬） ◇ライトアップイベント（かわらっこ12月1日～25日、具同地区11月17日～1月下旬）	四万十市 （観光商工課・産業建設課） 観光協会 四万十市観光振興連絡協議会 西土佐観光推進協議会 四万十市体験型観光受入研究会 幡多広域観光協議会 予土県境地域連携実行委員会 四万十川流域市町村観光振興連絡会 四国西南地域観光連絡協議会	◆教育旅行受入家庭数 H29:49軒→ R6:65軒 R2:52軒 R3:52軒 R4:13軒 R5:31軒 ◆広域における一般観光客数 H30:118万466人 → R6:64,500人増 R2:1,004,518人 R3:995,699人 R4:1,004,105人 R5:1,110,430人 ◆広域におけるスポーツ客数 H30:17万8,977人 → R6:12,200人増 H31:18万2,587人 R2:126,339人 R3:159,930人 R4:204,204人 R5:226,825人 ◆広域におけるはた旅体験商品利用者数 H30:20,269人 → R6:24,200人 R2:18,036人 R3:38,993人 R4:39,790人 R5:37,119人 ◆広域におけるはた旅体験商品数 H30:101商品/年 → R6:100商品/年 R2:107商品/年 R3:105商品/年 R4:99商品/年 R5:98商品/年	◆多様な実施主体が連携を強め、満足度、リピート率の高い滞在型の観光プログラムを持続的に展開している ◆広域組織における5つの機能 ①商品の企画・立案 ②商品の造成、販売、取扱 ③広報、情報発信、窓口 ④地域の人材育成 ⑤観光産業化 R6：強化	【観光分野】 〇観光案内所運営補助金（四万十市観光協会） ・観光協会観光案内所、臨時観光案内所での観光動向等 〇周遊促進・滞在延長支援事業費補助金 （四万十市観光協会） 〇観光客誘致宣伝活動 ・教育旅行、一般旅行の国内誘致活動（651千円） ・パンフレット等印刷（2,420千円） ・観光パンフレット送付（57千円） 〇ONSEN・ガストロノミーウォーキング 800千円 〇四万十川を活用した魅力向上事業補助金 （実施主体：四万十市観光振興連絡会議） ・花と食をテーマとした観光イベント（四万十川花紀行等）の開催、検証等 〇四万十市体験型観光受入研究会 ・体験プログラム等の磨き上げ、開発、家庭募集、研修ほか 〇幡多広域観光協議会負担金 10,718千円 （事業主体：幡多広域観光協議会） 「幡多広域観光振興計画」に基づき、高知県の自然・体験型観光キャンペーンと連携した事業を展開 〇四万十川観光遊覧船協議会 ・観光遊覧船事業の検証や磨き上げ 〇四万十リバーアクティビティ連絡協議会 ・カヌーやサップなどアクティビティの推進 〇モンベルフレンドエリア登録 594千円 〇スポーツ合宿等支援事業補助金 1,000千円 ・市内宿泊施設、スポーツ施設を利用した合宿・大会等を支援 〇自転車を活用したまちづくりを推進する全国市区町村長の会 10千円 〇西土佐地域産業振興推進協議会 ・食や観光資源を活用した地域活性化 〇地域おこし協力隊経費（観光振興1名） 5,095千円

分野		R 6 年度の取り組み状況 〈数量的に見える形で具体的に記載〉	主な事業主体	定量的な目標 到達点（R 6） 実績（直近）	備考 （定性的な目標、課題など）	令和 7 年度当初予算（取り組み）概要
連携テーマ						
施策						
アクションプラン						
主な内容						
連携分野						
		○しまんとリバーベキュープロジェクト【再掲】 （農林水産物の活用、商品開発、観光誘客など） ・道の駅よって西土佐、星羅四万十を拠点とした取組の推進 9月　JBBQA検定：初級（13名受検） 9月　クッキングクラス講習（6名） 10月　JBBQA検定：中級（4名受検） 12月　ジャッジクラス講習（3名） 12月　SCAASTEAKコンテスト 3月　ONSENガストロノミーウォーキング ○四万十市どっぷり旅得キャンペーン事業（物価高騰対策事業） 登録数　宿泊施設：47　体験施設：10　クーポン券取扱店：197 9月～1月末　クーポン券配布（2,000円×市内1万泊） （1,000円×市内5千体験分） 換金実績（執行割合）　66.70%（1月30日時点） 物価高騰対応地方創生臨時交付金を活用 ○西土佐地域産業振興推進協議会【再掲】 10月　西土佐うまいもの商店街 ○スポーツツーリズム ・大会招致 ①大会名：ニトリJD.LEAGUE 2024　第9節　四万十ラウンド 開催日：9月7～8日 参加チーム：トヨタ、日立、日本精工 ②大会名：第11回西日本一般男子ソフトボール大会 開催日：11月9～10日 参加チーム：20チーム ③大会名：第5回四万十旗争奪小学生野球大会 開催日：1月11～13日 参加チーム：16チーム ・スポーツキャンプ受入 4月：土佐高等学校（弓道） 9月：高知大学（合気道） 2月：同志社大学（準硬式野球） 足利大学（野球） 明治安田生命（硬式野球） 3月：京都先端科学大学（準公式野球） 大阪大学（硬式野球） ・受入に関する意見交換会等 1/29　幡多地域のスポーツツーリズムについて ○大宮バラ園来訪者へのガイド（5月～6月） バラ園入込数：1,123人、ガイド利用：3組33人 ○四万十・足摺エリア版DMOによる広域観光推進連携事業 （実施主体：幡多広域観光協議会） ・商談会（14回　146社） ・モニターツアーアテンド（一般旅行3回、教育旅行1回） ・団体旅行受入（17団体） ・教育旅行セールス（関東35社、関西14社） ・教育旅行受入（7校） ・教育旅行下見（1校） ・教育旅行商談会（2回　17社） ・インバウンド関連　教育旅行学校説明会（台湾　1回49校） ・インバウンド関連　団体旅行商談会（台湾　1回9社） ・インバウンド関連　旅行会社向けセミナー（マレーシア　1回30社） ・インバウンド関連　観光PRキャラバン（シンガポール　1回） ・観光PRキャラバン（4回） ・ツーリズムEXPOジャパン（東京） ・フィッシングショーOSAKA2025（大阪）				

分野		R 6 年度の取り組み状況 〈数量的に見える形で具体的に記載〉	主な事業主体	定量的な目標 到達点（R 6） 実績（直近）	備考 （定性的な目標、課題など）	令和 7 年度当初予算（取り組み）概要
連携テーマ						
施策						
アクションプラン						
主な内容						
連携分野						
		○海外への営業活動の促進 《観光 6》	・教育旅行受入（7 校） ・教育旅行下見（1 校） ・教育旅行商談会（2 回 17社） ・インバウンド関連 教育旅行学校説明会（台湾 1 回49校） ・インバウンド関連 団体旅行商談会（台湾 1 回 9 社） ・インバウンド関連 旅行会社向けセミナー（マレーシア 1 回30社） ・インバウンド関連 観光PRキャラバン（シンガポール 1 回） ・観光PRキャラバン（4 回） ・ツーリズムEXPOジャパン（東京） ・フィッシングショーOSAKA2025（大阪） ・GSTCトレーニング受講 ・宿泊アンケート調査 ○観光商品の外商の推進（実施主体：四万十市観光協会） 観光商品のセールス及び情報発信の強化 ・商談会への参加（4 月東京、5月広島・岡山、10月マレーシア・シンガポール、1月高知） ・デジタルパンフレットの作成（継続） ・SNS（フェイスブック、Instagram）の掲載内容充実（継続） ○西土佐地域産業振興推進協議会【再掲】 ・食や観光資源を活用した地域活性化 ・地域を巡るツアー「四万十西土佐半径3kmの旅」の磨き上げ ○観光大使設置事業（現在26名） ・本田雅人氏（サクセス奏者）への新規委嘱 ・観光大使へイベント情報等の情報発信依頼、市特産品を贈呈しPRを強化 ・間六口氏のイベント出演において、四万十市の情報を発信 ・やくみつる氏による一條大祭取材、祭り行事への参加 ○予土県境地域連携実行委員会 予土県境サイクルツーリズムの推進 ・サイクリングの魅力情報発信、サイクルトレイン事業 ・予土まちサイクルデジタルスタンプラリー（7 月～12月下旬） 予土県境地域ごとに、自然・観光・穴場スポットの設定 ・参加延べ人数：989名（前年度比約10％増） ★県観光キャンペーン「どっぶり高知旅」との連携【再掲】 ・オススメどっぶり高知旅コンテストへ応募（7 素材） （四万十市観光協会の「レンタサイクルを活用した自由な四万十川 四万十市内散策」コンテンツが幡多地域エリアで 1 位） ・商品造成エリアへ選定され、商品開発を行う（田出ノ川地区） ・周遊促進・滞在延長支援事業費を活用 事業名：四万十川川バス周遊促進事業（2,010千円） ○観光ガイドミーティング（4 回） ・LOILOIしまんとミーティング（4 月、6 月、9 月、11月）			○観光客誘致宣伝活動【再掲】 ・教育旅行、一般旅行の国内誘致活動（651千円） ・パンフレット等印刷（2,420千円） ・観光パンフレット送付（57千円） ○観光大使設置事業 ・国内外への幅広い情報発信力を活かした広報活動を展開（R 7 年度委嘱予定：1 名程度） ○地域おこし協力隊経費（観光振興 1 名）【再掲】 ○周瑜促進・滞在延長支援事業費補助金【再掲】 （四万十市観光協会） ○西土佐地域産業振興推進協議会【再掲】
		○多様な媒体を活用した広報活動の強化 《観光 7》				341千円
	○一元的な情報発信の促進 《連携 8、11、商工 4、7、 観光 7、10》				【4,593千円】	
	○ターゲットに合わせたプロモーションの展開 《観光 7》				【5,095千円】	
	◎産業間連携や広域連携による誘客 （PR）活動 《連携11、観光 7》				【1,000千円】	
3. 四万十の“食”文化の磨き上げと発信						
【連携AP10】						
(1) “食”文化の磨き上げ						
	○四万十の食文化の掘起し、磨き上げ 《商工 6》	○中村の塩たたきプロジェクト ・参画事業者（34店舗）による塩たたきの普及	四万十市 （農林水産課・観光商工課・産業建設課） 関係団体・組織 事業者 生産者		◆四万十の“食”として市内外の知名度が向上し、販売や観光誘客などの拡大につながっている	
	○塩たたきのブランド化の推進 《商工 6》	○しまんとリバーベキュープロジェクト【再掲】 （農林水産物の活用、商品開発、観光誘客など）				
	○魚食文化の磨き上げ 《水産13》	・道の駅よって西土佐、星羅四万十を拠点とした取組の推進				
	○未利用資源等の掘起しと利活用 《連携 5、水産10》	9 月 J B B Q A 検定：初級（13名受検） 9 月 クッキングクラス講習（6 名） 10 月 J B B Q A 検定：中級（4 名受検） 12 月 ジャッジクラス講習（3 名） 12 月 S C A A ステーキコンテスト 3 月 O N S E N ガストロノミーウォーキング				

四万十市産業振興計画 アクションプラン進捗管理シート 【令和6年度】

分野		R 6 年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	定量的な目標 到達点 (R 6) 実績 (直近)	備考 (定性的な目標、課題など)	令和 7 年度当初予算 (取り組み) 概要
連携テーマ						
施策						
アクションプラン 主な内容						
連携分野						
	【連携AP11】 (2) “食” の発信					
	○食の魅力を活かした観光地づくり 《観光 4》 ★自然・体験型の観光と歴史や文化、食とが一体となった観光プログラムの造成・発信及び販売 《観光 4》 ○食の発信イベント・企画の磨き上げ及び拡充 《水産14、商工 7》 ○一元的な情報発信の促進 《連携 8、9、商工 4、7、観光 7、10》 ◎産業間連携や広域連携による誘客 (PR) 活動 《連携 9、観光 7》 ★県外事業者等の拠点を活用した外商活動 《商工 8》	○食の発信・普及イベント等【再掲】 4～11月 奥伊予街道七駅物語 (ｽﾀﾝﾌﾟﾗｲﾝ、愛媛県道の駅と連携) 6月 しまんと西土佐あゆフェス (道の駅) 8月 ナスフェス (道の駅) 10月 西土佐うまいもの商店街 3月 四万十川花紀行「菜の花」まつり 3月 O N S E N ・ガストロノミーツーリズム ○予土県境地域連携実行委員会【再掲】 予土県境サイクルツーリズムの推進 ・サイクリングの魅力情報発信、サイクルトレイン事業 ・予土まちサイクルデジタルスタンプラリー (7月～12月下旬) 予土県境地域ごとに、自然・観光・穴場スポットの設定 参加延べ人数：989名 ○しまんとリバーベキュープロジェクト【再掲】 (農林水産物の活用、商品開発、観光誘客など) ・道の駅よって西土佐、星羅四万十を拠点とした取組の推進 9月 J B B Q A 検定：初級 (13名受検) 9月 クッキングクラス講習 (6名) 10月 J B B Q A 検定：中級 (4名受検) 12月 ジャッジクラス講習 (3名) 12月 S C A A ステーキコンテスト 3月 O N S E N ガストロノミーウォーキング ○四万十・足摺エリア版DMOによる広域観光推進連携事業【再掲】 (実施主体：幡多広域観光協議会) ・商談会 (14回 146社) ・モニターツアーアテンド (一般旅行3回、教育旅行1回) ・団体旅行受入 (17団体) ・教育旅行セールス (関東35社、関西14社) ・教育旅行受入 (7校) ・教育旅行下見 (1校) ・教育旅行商談会 (2回 17社) ・インバウンド関連 教育旅行学校説明会 (台湾 1回49校) ・インバウンド関連 団体旅行商談会 (台湾 1回9社) ・インバウンド関連 旅行会社向けセミナー (マレーシア 1回30社) ・インバウンド関連 観光PRキャラバン (シンガポール 1回) ・観光PRキャラバン (4回) ・ツーリズムEXPOジャパン (東京) ・フィッシングショーOSAKA2025 (大阪) ・GSTCトレーニング受講 ・宿泊アンケート調査	四万十市 (農林水産課・観光商工課・産業建設課) 関係団体・組織 事業者 生産者	◆県内平均消費額 (四万十川) H29:28,869円 → R 6 :33,000円 R 2 :26,849円 R 3 :29,495円 R 4 :32,356円 R 5 :32,356円 ◆商店街通行者数 (平日) H27～H30平均:5,338人/日 →R 6 :6,200人/日 R 2 :5,824人/日 R 3 :4,743人/日 R 4 :4,359人/日 R 5 :5,859人/日 ◆産業祭来場者数 H30:20,000人 → R 6 :40,000人/5年 H31:3,000人 R 2 :中止 R 3 :中止 R 4 :10,000人 R 5 :2,000人 ※H31、R5は西土佐産業祭	◆四万十の“食”として市内外の知名度が向上し、観光誘客や市街地への人の回遊につながっている	【商工業分野】 ○地産外商促進事業 (西土佐地域出店関係)【再掲】 【771千円】 ・ふるさとまつり、枚方物産展、大丸フェア、ヒールロッコ 【観光分野】 ○ONSEN・ガストロノミーウォーキング【再掲】 【800千円】 ○四万十川を活用した魅力向上事業補助金【再掲】 【1,450千円】 (実施主体：四万十市観光振興連絡会議) ・花と食をテーマとした観光イベント (四万十川花紀行等) の開催、検証等 ○幡多広域観光協議会負担金【再掲】 【10,718千円】 (事業主体：幡多広域観光協議会) 「幡多広域観光振興計画」に基づき、高知県の自然・体験型観光キャンペーンと連携した事業を展開

分野		R 6 年度の取り組み状況 （数量的に見える形で具体的に記載）	主な事業主体	定量的な目標 到達点（R 6） 実績（直近）	備考 （定性的な目標、課題など）	令和 7 年度当初予算（取り組み）概要
戦略の柱						
施策						
アクションプラン						
主な内容						
農業分野						
1 産地としての維持・強化						
1. 戦略品目の生産拡大						
【農業:AP 1】 (1)ぶしゅかんの産地づくり						
◎生産量の拡大と産地化の推進	○ぶしゅかん産地化・普及推進事業【再掲】 ・ぶしゅかん産地化推進業務委託（四万十ぶしゅかん生産者組合） ・地域おこし協力隊（通年：販促・PR業務など） ・新規定植（苗代への補助） ・有害鳥獣対策用防護柵（設置費補助） ○ぶしゅかん栽培現地検討会・目慣らし会（8月22日）【再掲】 栽培管理指導、巡回指導等、植え付け・剪定講習会（2月15日予定） ○四万十ぶしゅかん㈱を主体に各種商談会、展示会、物産展等での の販路開拓・販売促進活動を展開【再掲】 ・仲卸会社（東京）、製菓会社（東京）、市内旅館等 ○ぶしゅかん生産量の把握【再掲】 ・市内栽培面積、生産量の把握、青玉の流通	四万十市 （農林水産課・観光商 工課） 生産者 事業者	◆ぶしゅかん新植面積 H30:10.9ha → R 6 :25ha R 2 :13.0ha R 3 :13.6ha R 4 :14.9ha R 5 : 15.1ha ◆ぶしゅかん生産量 H30:28.1t → R 6 :81t R 2 :26.7t R 3 :29.1 t R 4 :19.7 t R 5 :40.5 t R 6 :21.7t		○ぶしゅかん普及推進事業【再掲】 【1,150千円】 ・新規定植（苗代への補助） 900本 180a ・有害鳥獣対策用防護柵（設置費補助） 100m ・産地化推進事業業務委託 ○ぶしゅかん生産量の把握【再掲】 — ・市内栽培面積、生産量の把握、青玉の流通 ○四万十ぶしゅかん㈱を主体に商談会等へ参加【再掲】 【237千円】	
【農業AP 2】 (2)ゆずの産地化促進						
○生産性の向上 ○隔年結果の低減や青果率、秀品率の 向上	○ゆずの生産性の向上 ・冬至用・平箱ゆず出荷目慣らし会(10月)、剪定講習会(3月)	四万十市 （農林水産課・産業建 設課） JA高知県 生産者、事業者	◆ゆず栽培面積 H30:44.0ha → R 6 :45ha R 2 :44.1ha R 3 :44.1ha R 4 :44.1ha R 5 : 44.1ha ◆ゆず生産量 H27-H30平均431.5t/年 →R 6 :445 t R 2 :541.0t R 3 : 558.0 t R 4 :476.4t R 5 :639.4t		○高知県ゆず振興対策協議会負担金 31千円 ○剪定、誘引指導の実施 — ○目慣らし会、出荷販売検討会（JA高知県中村支所） — ○「四万十ゆず」の地域団体商標登録に向けた取組 — みの推進（JA高知県中村支所）	
【農業AP 3】 (3)栗の産地再生						
◎栗園の再生	○栗暮プロジェクト【再掲】 ・西土佐橘地区栗実証農園運営（農業公社へ運営委託） ・水田転換推進業（排水対策工事） 計画：0.6ha（2月末時点0.05ha） ・新改植推進事業（苗木補助） 計画：1,100本（2月末時点186本） ○栗の集出荷（西土佐地域） （実施主体：JA高知県、しまんと美野里、西土佐ふるさと市） ・JA高知県：栗を含め地域振興作物の集出荷 ・しまんと美野里：栗の集出荷及び加工販売 ・西土佐ふるさと市：栗を含め地元産品の販売	四万十市 （産業建設課） JA高知県 生産者 事業者	◆栗栽培面積 H30:48ha → R 6 :60ha R 2 :52.2ha R 3 :55.0ha R 4 :58.6ha R 5 :60.2ha R 6 :61.0ha ◆栗生産量 H27-H30 平均23.5t/年 → R 6 :60t R 2 :18.3t R 3 : 21.0t R 4 :17.2t R 5 :18.0t R 6 :15.5t		○栗暮プロジェクト【再掲】 【1,064千円】 ・栗園モデル事業 ・産地化促進補助（苗木補助） ・水田転換推進事業（平場新植推進） ○園芸作物等の集出荷を継続実施 — （JA高知県、しまんと美野里）	
【農業:AP 4】 (4)米ナスの振興						
★生産量の拡大と産地化促進 ★地元での認知度向上及びブランド力 の向上	○西土佐地域産業振興推進協議会【再掲】（アツいまちサミットラボ`事業） ・PRイベント「ナスフェス」開催 ・「ガブツと米ナス」キャンペーン開催（8/1～9/30） 西土佐地域12店舗参加、期間中、米ナス料理を提供 ○露地作付面積日本一米ナスを活用した地域活性化事業【再掲】 （西土佐地域産業振興推進協議会） ・HPでの情報発信 ・産地としての競争力強化と販路拡大（JAとの連携） ○地域への定着 ・学校との連携（西土佐小学校・中学校、西土佐分校で栽培体験実施） ・PRイベント「ナスフェス」への学生参加（高校生） ・市内小中学校給食における米ナスメニュー提供（6月,7月,9月） ・天敵温存ハウス整備事業（JA米ナス部会）：補助実績140千円、整備面積180㎡ 天敵昆虫（タバコカスミカメ）の温存ハウス整備による、農薬低減、農家負担の 軽減、産地化の強化	四万十市 （農林水産課・産業建 設課） JA高知県 生産者 事業者	◆米ナス栽培面積 H30:504a → R 6 :490a R 2 :452a R 3 :434a R 4 :406a R 5 :350a R 6 :335a ◆米ナス生産量 H30:260t → R 6 :359t R 2 :274.1t R 3 :289.3t R 4 :232.8t R 5 :224.2t R 6 :193.1t		○露地作付面積日本一米ナスを活用した地域活 性化事業【再掲】 — （西土佐地域産業振興推進協議会） ・販路開拓、広告宣伝等	

分野		R 6 年度の取り組み状況 〈数量的に見える形で具体的に記載〉	主な事業主体	定量的な目標 到達点（R6） 実績（直近）	備考 （定性的な目標、課題など）	令和7年度当初予算（取り組み）概要
戦略の柱	施策					
	アクションプラン					
	主な内容					
農業分野						
	【農業：AP5】 (5)有望品目の産地強化					
	○地域に根づいた有望品目による産地の育成・強化 ○新規品目導入の支援 ★新規品目「わさび」の栽培実用化に向けた取り組み ○野菜価格安定制度による経営支援	○レンタルハウス整備事業（実施主体：高知県農業協同組合） ・新規就農区分2件（品目：ピーマン） ○園芸ハウス整備事業 ・ハウス修繕8件（品目：ピーマン、イチゴ、トマト、ショウガ、メロン、大根） ○燃料タンク対策事業 （実施主体：高知県農業協同組合、生産者1戸） 流出防止付タンク及び防油堤の整備：2基分 ○新規作物導入試作支援事業（西土佐農業公社等） 栽培実証及び販売促進等を支援（米ナス盛夏期の高温対策試験） ○わさび実証実験事業（実施主体：四万十市わさび栽培協議会） ・わさびの2作目の栽培管理、総括 ○野菜価格安定事業（中村地域：四万十市中村野菜価格安定基金協会） 5月に給付（前年度分） 対象品目：オクラ、シシトウ、ナバナ ○園芸作物価格安定事業（西土佐地域：園芸作物価格安定基金評議会） 3月 評議会を開催（4月以降補給金支払） 対象品目：シシトウ、ナバナ、インゲン、米ナス、小ナス オクラ、茎ブロッコリー、イチゴ	四万十市 （農林水産課・産業建設課） JA高知県 四万十農園あぐりっこ 西土佐農業公社 集落営農組織 生産者		◆有望品目の安定生産や新規品目が地域内で定着し、安定した農業経営につながっている	○レンタルハウス整備事業（3件） 85,800千円 ○園芸ハウス整備事業（ハウスの修繕10件） 2,123千円 ○燃料タンク対策事業 7,002千円 ・流出防止付タンク及び防油堤の整備：3基分 ○新規作物導入試作支援事業（西土佐農業公社等） — ・栽培実証及び販売促進等を支援 ○わさび栽培実証実験事業 1,998千円 ・わさび栽培協議会負担金、栽培実証試験継続 ○野菜価格安定事業（基金協会負担金） 1,000千円 ・補給金：2,000千円（市1,000千円、JA1,000千円） ○野菜価格安定事業（市事業分） 2,000千円 中村地域のみ 市・JA・生産者 1/3負担 対象品目：オクラ・シシトウ・ナバナ ○園芸作物価格安定事業（特別会計） 570千円 ○園芸用ハウス等リノベーション事業 502千円
	2. 生産性の高い栽培技術の導入					
	【農業：AP6】 (1)学び教えあえる場づくり					
	○学び教えあう場づくり	○農業基礎講座 ・農業基礎講座（7月～9月）：7回開催、（10月～11月）：3回開催（年間10回） （栽培技術、就農計画、制度資金、農業適正使用、経営管理等） ○JA選果場における目慣らし会の実施（随時） ○地域内農家による巡回指導（随時）	四万十市 （農林水産課・産業建設課） JA高知県 四万十農園あぐりっこ 西土佐農業公社 生産者		◆講座等を通じて、営農に不可欠な栽培技術や経営感覚が習得され、持続的な農業経営が実践されている ◆新規就農者等と篤農家との交流が促進され、情報収集や就農後の相談体制収集や就農後の相談体制等ネットワークが構築されている	○農業基礎講座（県農業振興センター主体） — ・農業研修生等を対象に年10回程度実施予定 ○JA選果場における目慣らし会の実施 — ○地域内農家による巡回指導 — ・農家による四万十農園あぐりっこ研修生への訪問指導
	【農業：AP7】 (2)環境保全型農業の推進					
	○環境保全型農業の普及・啓発	○有機農業等総合支援事業 ・堆肥等有機物利用促進 上半期（4月～9月）中村実績：1件 下半期（10月～3月）西土佐実績3件（1月末時点） ○環境保全型農業直接支払交付金事業 ・3団体 取組面積：3,711a （有機農業3,610a（中村）、カバークロップ101a（西土佐）） ○環境保全型農業推進事業 ・JA高知県西土佐伊予支部会 計画：4戸、66a → 実績見込0戸、0a 目立った病害虫発生がなかったことにより未実施	四万十市 （農林水産課・産業建設課） 生産者	◆環境保全型農業直接支払事業参加経営面積 H30：21.4ha → R6：25ha R2：30.7ha R3：32.6ha R4：35.4ha R5：43.5ha R6：37.1ha ◆環境保全型農業推進事業実施経営体数 H30：21戸 → R6：20戸を維持 R2：0戸 R3：0戸 R4：0戸 R5：0戸	◆四万十川のブランドイメージにマッチした環境保全型農業が推進され、消費者からの支持が集まり、農産物の高付加価値が高まっている	○有機農業等総合支援事業 147千円 ・市内産畜産堆肥購入、たい肥散布 補助率1/3 ○環境保全型農業直接支払交付金事業（事務費含む） 6,190千円 ・3団体 取組面積：4,457a
	【農業：AP8】 (3)先端技術を活用した園芸施設や園芸システム等の普及推進					
	◎次世代型こうち新施設園芸システムの普及推進	○次世代園芸ハウス事業化に向けた協議 ・事業者、高知県、農業公社など関係機関にて随時協議 ○Next次世代型施設園芸の導入 合計 138名 ①出荷データの提出に同意 135名（②＋③） ②SAWACHI登録かつ出荷データの提出に同意 59名 ③出荷データの提出に同意のみ（SAWACHI登録なし） 76名 ④SAWACHI登録のみ（出荷データの提出なし） 3名	四万十市 （農林水産課・産業建設課） 生産者	◆次世代施設園芸等への誘致企業数 H30：0社 → R6：1社 R2：0社 R3：0社 R4：0社 R5：0社 R6：0社		

分野		R 6 年度の取り組み状況 〈数量的に見える形で具体的に記載〉	主な事業主体	定量的な目標 到達点（R6） 実績（直近）	備考 （定性的な目標、課題など）	令和7年度当初予算（取り組み）概要
戦略の柱 施策	アクションプラン					
	主な内容					
農業分野						
3. 集落営農の推進						
【農業:AP9】 (1) 集落営農の組織化、法人化の支援						
○組織化に向けた取組みの推進	○既存組織へのフォローアップ ・組織間連携 中村地域営農協議会（R5.10.25設立）の役員会を開催（月1回） 代表：（農）利岡FARM 事務局：（農）田野川甲営農組合 構成組織：（農）入田村、（農）いーすとみやま、（農）わらびおか、 （農）三里営農組合、楠島あぐり集落営農組合 米の共同出荷の実施、ドローン導入（R7予定）に向けた協議 ドローン部会の法人化（（仮称）合同会社スマートアグリ中村を3月設立予定）に向けた協議 ・組織間連携（中村地域営農協議会役員会月1回開催） ・集落営農組織連絡会開催（西土佐地域 11月、2月） ・組織別座談会	四万十市 （農林水産課・産業建設課） 集落営農組織	◆集落営農組織数 H30:31組織 →R6:31組織を維持 R3:31組織 R4:31組織 R5:31組織 ◆農業経営を行う法人数 H30:4法人→R6:8法人 R3:8法人 R4:8法人 R5:8法人		○組織化への誘導 ・集落営農広域連携組織の協議 （毎月1回程度） ○既存組織へのフォローアップ ・集落営農組織連絡協議会（年1回程度） ・組織別座談会 ○地域営農支援事業（ソフト事業） ・先進地視察（組織化への誘導、既存組織へのフォローアップ・支援）	— — 340千円
【農業:AP10】 (2) こうち型集落営農の実践						
○収益性の高い品目を導入した組織の育成・支援	○地域営農支援事業（ソフト事業） ・農事組合法人入田村:雇用確保支援 300千円（農の雇用事業） ○地域営農支援事業（ハード事業）【再掲】 営農組織に対する農業用機械、施設整備等の助成 ※集落営農活性化プロジェクトの上乗せ分 ・（農）三里営農組合 コンバイン（2,068千円） ・（株）大宮産業：乾燥調製設備一式（21,786千円） ※集落営農活性化プロジェクトの上乗せ分 （427千円） ○集落営農活性化プロジェクト促進事業 営農組織に対する農業用機械、施設整備等の助成 ・西土佐西部営農組合：籾摺機一式（712千円） ・（農）三里営農組合 コンバイン（3,445千円）	四万十市 （農林水産課・産業建設課） 集落営農組織 JA高知県 生産者		◆収益性の高い品目を導入する組織が育成させれている	○地域営農支援事業（ハード事業） ※当初0、6月補正対応 組織に対する農業用機械、施設整備の助成 ・西土佐地域実施予定3組織 （オカタ営農組合、津賀営農組合、にしとさすさき営農組合） ○こうち農業確立総合支援事業 ※当初0、6月補正対応 近代化施設整備 西土佐地域実施予定1組織 （西土佐紅はるか生産組合）	0千円 0千円
4. 生産・出荷支援システムの構築						
【農業:AP11】 (1) 農作業支援体制の充実						
○農作業支援体制の整備	○農作業支援隊による農業労働力確保事業（高知県農業協同組合） ・農作業支援 堆肥散布:281t、作業支援:0件、WCS収穫、梱包:0a ○農作業支援体制の整備 ・無料職業紹介所 （中村地域）求職者:14件、求人:24件、マッチング:延べ26件 （西土佐地域）求職者:0件、求人:1件、マッチング:延べ0件 ・周知活動:市役所2階図書館入口に募集ポップ設置（通年）	四万十市 （農林水産課・産業建設課） JA高知県 西土佐農業公社	◆無料職業紹介所紹介件数 H30:82件 → R6:180件 R2:50件 R3:53件 R4:35件 R5:24件		○無料職業紹介（JA高知県） ・幡東、北幡地域で無料職業相談所運営を継続	—
【農業:AP12】 (2) 集出荷支援体制の充実						
○集出荷拠点施設の運営及び集出荷支援	○ぶしゅかん集出荷事業（四万十ぶしゅかん生産者組合）【再掲】 8～9月 集出荷支援 ○農産物の集出荷 JA高知県、しまんと美野里、西土佐ふるさと市 東富山を守る会	四万十市 （農林水産課・産業建設課） JA高知県、生産者 大川筋振興組合 東富山を守る会	◆生産・出荷支援システム 取組件数 H30:5件 →R6:5件を維持 R2:5件 R3:5件 R4:5件 R5:5件 R6:5件		○園芸作物等の集出荷を継続実施【再掲】 （実施主体：JA高知県西土佐支所 他）	—

分野		R 6 年度の取り組み状況 （数量的に見える形で具体的に記載）	主な事業主体	定量的な目標 到達点（R6） 実績（直近）	備考 （定性的な目標、課題など）	令和7年度当初予算（取り組み）概要	
戦略の柱							
施策							
アクションプラン							
主な内容							
農業分野							
		【農業AP13】 (3)地域内農業者の共同生産体制の構築					
		○西土佐地域での共同生産体制の構築 JAにおいて米ナス共同選果試験実施（6月～10月 生産者3名参加） 米ナス共同選果の実施に向けた検討会実施		四万十市 （産業建設課） JA高知県、生産者	◆生産技術を有する者がリーダーとなり 共同生産を行うグループが結成され、出荷・販売が行なわれている	○西土佐地域での共同生産体制の構築 JAにおいて米ナス共同選果試験実施（数名限定）	
	2 地元農畜産物の利用・販売促進						
	1. 地元農畜産物の利用促進						
		【農業：AP14】 (1)地元消費拡大に向けた取組みの強化	主な内容 ○公共施設での利用促進、○地元消費拡大フェアの開催⇒ 連携AP 1 ○市内量販店等を拠点とした販路拡大⇒ 連携AP 2				
		【農業：AP15】 (2)直販機能の強化	主な内容 ◎直販所機能の強化⇒ 連携AP 2 ◎道の駅「よって西土佐」の機能拡充⇒ 連携AP 2、連携AP 8				
	2. ブランド化の確立と販売促進						
		【農業：AP16】 (1)ブランド化の推進	主な内容 ○戦略品目のブランド化、◎40010日プロジェクト、★新食肉センター整備に伴う養豚場の整備促進、★四万十牛を核とした西土佐地域の産業振興⇒ 連携AP 3				
		【農業：AP17】 (2)地元農畜産物を使った商品の開発・販売	主な内容 ○地元農畜産物を使った商品の開発、○意欲的な生産者への支援⇒ 連携AP 3 ◎産業間連携や広域連携による外商活動等、○商談会等販路開拓・拡大の支援⇒ 連携AP 8				
	3. 有機農業の推進						
	【農業：AP18】 (1)有機農産物の販路開拓・拡大	主な内容 ○有機農産物の流通促進⇒ 連携AP 1、連携AP 8 ○公共施設での利用促進⇒ 連携AP 1					
	【農業：AP19】 (2)有機農業の普及・啓発活動の推進						
	○有機農業の普及・啓発	○有機農業等総合支援事業【再掲】 ・堆肥等有機物利用促進 上半期（4月～9月）中村実績：1件 下半期（10月～3月）西土佐実績3件（1月末時点）	四万十市 （農林水産課・産業建設課） 地産地消推進団体 生産者	◆有機農業等総合支援事業 実施面積 H30：6.0ha → R6：6.0haを維持 R2：9.5ha R3：5.8ha R4：5.7ha R5：4.6ha	◆四万十川のブランドイメージにマッチした有機農業が推進され、消費者からの支持が集まり、農産物の高付加価値が高まっている	○有機農業等総合支援事業【再掲】 ○環境にやさしい農業のための研究会との連携	
3 担い手の確保・育成							
1. 新規就農者の確保・育成							
	【農業：AP20】 (1)新規就農者の研修支援						
	○新規就農者の確保・育成 ○新規就農者に対する農地提供促進	○新規就農研修支援事業 研修生手当、受入農家等研修補助金を交付 ・中村地域 受入農家 ：継続2名、新規1名（R6.8月開始） ・西土佐地域 西土佐農業公社及び受入農家 継続1名 ○農地等の斡旋 ・空き農地、空きハウス情報収集・提供	四万十市 （農林水産課・産業建設課） 四万十農園あぐりっこ 西土佐農業公社 JA高知県 生産者	◆新規就農者数 H27-H30平均2.8人/年 → 3人/年 R2：7人/年 R3：7人/年 R4：1人/年 R5：3人/年		○新規就農者育成総合対策事業 （研修支援） ・研修生手当（継続2名、新規2名） ・受入農家等研修補助金（継続2名、新規2名） ○四万十農園あぐりっこ運営費 ○農地の斡旋 ・空き農地、ハウス情報収集	
	【農業：AP21】 (2)新規就農支援体制の拡充						
	○相談支援体制の充実 ○経営安定への支援 ○就農開始時の支援	○就農相談会等 ・県外の合同就農相談会（大阪）出展1回（10/27） ・県外の合同就農相談会（東京）出展1回（12/8） ・県内の合同就農相談会（高知）出展1回（2/9） ・県外の就農相談会（大阪）出展1回（3月） ○新規就農支援チームによるトータルサポート ・営農指導、経営指導、事業導入、資金利用計画等のサポート ・経営計画作成支援等 ○農業次世代人材投資資金（経営開始型）交付 ・継続対象者：6名（中村5名・西土佐1名） ○新規就農者育成総合対策（経営開始資金・経営開始支援資金）交付 ・継続対象者：5名（中村4名・西土佐1名）、新規対象者：2名（中村） ○新規就農者育成総合対策（就農準備資金・就農準備支援資金）交付 ・継続対象者4名（中村3名・西土佐1名）	四万十市 （農林水産課・産業建設課） 四万十農園あぐりっこ 西土佐農業公社 JA高知県	◆新規就農者数 H27-H30平均2.8人/年 H27-H30平均2.8人/年 → 3人/年 R2：7人/年 R3：7人/年 R4：1人/年 R5：3人/年		○農業次世代人材投資資金事業及び新規就農者育成総合対策事業（経営発展） ・就農相談会への参加（東京1回、大阪1回） ・就農初期段階の青年就農者への経営支援 継続対象者：10名、新規対象者：5名 ○就農相談・経営安定化支援 ・就農支援チームによるトータルサポート 営農指導、経営指導、事業導入、資金利用計画等	

分野		R 6 年度の取り組み状況 〈数量的に見える形で具体的に記載〉	主な事業主体	定量的な目標 到達点（R 6） 実績（直近）	備考 （定性的な目標、課題など）	令和 7 年度当初予算（取り組み）概要
戦略の柱 施策	アクションプラン					
	主な内容					
農業分野						
	【農業：AP22】 (3) 移住促進による新規就農支援					
	○移住就農者の誘致活動	○就農相談会等【再掲】 ・ 県外の合同就農相談会（大阪）出展1回（10/27） ・ 県外の合同就農相談会（東京）出展1回（12/8） ・ 県内の合同就農相談会（高知）出展1回（2/9） ・ 県外就農相談会（大阪）出展1回（3月） ○市農業紹介PR映像配信 就農希望者へのPRのため研修施設や農作物（トマト、ピーマン、米ナス、ぶしゅかん、しまんと農法米、栗）を内容とした映像を配信	四万十市 （農林水産課・産業建設課） 四万十農園あぐりっこ 西土佐農業公社 JA高知県	◆新規就農者数 H27-H30平均2.8人/年 → 3人/年 R2：7人/年 R3：7人/年 R4：1人/年 R5：3人/年		○農業次世代人材投資資金事業及び新規就農者育成総合対策事業（経営発展）【再掲】 ・ 就農相談会への参加（東京1回、大阪1回）
	2. 認定農業者等の育成					
	【農業：AP23】 (1) 認定農業者制度の周知強化					
	○今後育成すべき農業者の把握、誘導 ○認定農業者制度の周知徹底	○地域計画策定に向けた取組 ・ 全16地区で協議の場を実施。地域計画の策定・公表。 ○経営所得安定対策推進事業 5月 中村地域：3回、西土佐地域：3回 ○認定農業者制度（見込み含む） ・ 認定新規就農者（5年経過）へ制度説明・誘導 （5年経過の更新認定：中村地域2人、西土佐地域 名） ・ 5年経過の更新認定（中村地域：36人、西土佐地域： 人） ・ 認定新規就農者から移行の新規認定（中村地域：0人）	四万十市 （農林水産課・産業建設課） JA高知県	◆認定農業者数 H30：139人 → R6：150人 R2：131人 R3：127人 R4：122人 R5：124人 R6：123人（予定）		○地域計画の見直し（16地区） ・ 国の事業を活用する時や、担い手に変更がある 時等には随時見直しを行う。 ○認定新規就農者の5年経過した者を認定農業者へ誘導
	【農業：AP24】 (2) 認定農業者等のフォローアップの強化					
	○認定農業者等のフォローアップの強化	○認定農業者のフォローアップ ・ 新規認定者の計画作成支援（中村地域：1件、西土佐地域：1件） ・ 再認定者の計画策定支援（中村地域：36件、西土佐地域：3件） ・ 広域認定者の計画認定支援（中村地域：4件、西土佐地域：0件）	四万十市 （農林水産課・産業建設課） JA高知県 認定農業者連絡協議会	◆認定農業者数 H30：139人 → R6：150人 R2：131人 R3：127人 R4：122人 R5：124人 R6：123人（予定）		○担い手育成・確保対策事業 375千円 ・ 認定農業者のフォローアップ等 ○農業後継者育成支援（西土佐地域） 70千円 ・ 評議会において農業後継者育成のための各種事業の検討及び実施（農業後継者育成確保基金）
	【再掲】 3. 集落営農の推進					
	【農業：AP9】 (1) 集落営農の組織化、法人化の支援	主な内容 ○組織化に向けた取組みの推進、★組織の広域連携化の推進、◎フォローアップ体制の充実・強化⇒ 農業AP9				
	【農業：AP10】 (2) こうち型集落営農の実践	主な内容 ○収益性の高い品目を導入した組織の育成・支援⇒ 農業AP10				
4 農地の利用促進						
1. 農地の利用調整						
	【農業：AP25】 (1) 農地利用の円滑化					
	○農地中間管理機構の活用 ○地域の農業委員による農地の利用調整 ◎人・農地プランの実質化 ⇒地域計画の策定	○農地中間管理事業 ・ 市内全域で中間管理事業実施に向けた農地の掘り起こし ・ 掘り起こした農地の中間管理権設定（上半期実績：30,017㎡） ○農業委員等による農地の利用調整 ・ 農地パトロールの実施、利用意向調査実施、調査結果の取りまとめ結果（機構利用希望データ）の機構への引渡し、情報提供 ○地域計画策定に向けた取組【再掲】 ・ 全16地区で協議の場を実施。地域計画の策定・公表。	四万十市 （農林水産課・産業建設課） 農業委員会		◆営農類型に応じた農地集積、農地利用の円滑化（流動化）が促進されている	
	【農業：AP26】 (3) 基盤整備の推進					
	○入田、三里地区整備 ○利岡地区整備 ○その他の地区整備	○利岡地区（R5繰越、R6現年） ・ 補完工事及び換地業務 ○整備検討地区への説明会開催（楠島地区） ○アンケート結果に基づく地区協議（蕨岡地区）	四万十市 （農林水産課・産業建設課） 地区組織	◆ほ場整備実施面積 H31：1,128.3ha → R6：1,144ha R3：1142.3ha R4：1142.3ha R5：1142.3ha ※新たな整備はなし		○利岡地区整備（県営事業負担金） 1,000千円 ・ 補完工事 ○蕨岡地区ほ場整備推進事業 3,000千円 ○整備検討地区との協議を随時実施

四万十市産業振興計画 アクションプラン進捗管理シート 【令和6年度】

分野	戦略の柱	R 6 年度の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	主な事業主体	定量的な目標 到達点 (R 6) 実績 (直近)	備考 (定性的な目標、課題など)	令和 7 年度当初予算 (取り組み) 概要
	施策					
	アクションプラン					
	主な内容					
農業分野						
2. 耕作放棄地対策						
【農業:AP27】 (1) 耕作放棄地の再生及び発生防止対策						
○耕作放棄地の再生 ○耕作放棄地の発生防止対策		○耕作放棄地の再生 ・農地利用意向調査による再生地情報の取得、 ・農地パトロールによる再生地確認 ○耕作放棄地の発生防止対策 ・中山間地域等直接支払交付金 (四万十市計) 交付予定額: 86,398千円 交付組織数: 50組織 (うち西土佐48,245千円、28組織) ・多面的機能支払交付金 (四万十市計) 交付予定額: 84,425千円 交付組織数: 57組織、1,354ha (うち西土佐9,401千円、11組織)	四万十市 (農林水産課・産業建設課) 農業委員会 集落協定組織 農地・水保全組織	◆中山間地域等直接支払制度の実施農地面積 H31:521.5ha →R 6:521.5haを維持 R 3:547.2ha R 4:546.7ha R 5:547.3ha ◆多面的機能支払制度の実施農地面積 H31:1,446.1ha →R 6:1,446.1haを維持 R2:1,446.1ha R3:1,403.4ha R4:1,378.8ha R5:1,379.8ha	○耕作放棄地の発生防止対策 ・多面的機能支払交付金 107,338千円 ・中山間地域等直接支払交付金 139,983千円	
【農業:AP28】 (2) 適合品目の栽培促進						
○適合品目の栽培促進		○栗暮プロジェクト【再掲】 ・西土佐橘地区栗実証農園運営 (農業公社へ運営委託) ・水田転換推進業 (排水対策工事) 計画: 0.6ha (2月末時点0.05ha) ・新改植推進事業 (苗木補助) 計画: 1,100本 (2月末時点186本)	四万十市 (農林水産課・産業建設課) 生産者	◆ぶしゅかん新植面積 H30:10.9ha → R 6:25ha R 2:13.0ha R 3:13.6ha R 4:14.9ha R 5:15.1ha ◆栗栽培面積 H30:48ha → R 6:60ha R 2:52.2ha R 3:55.0ha R 4:58.6ha R 5:60.2ha R 6:61.0ha	○ぶしゅかん普及推進事業【再掲】 【1,150千円】 ○栗暮プロジェクト【再掲】 【1,064千円】 ○露地作付面積日本一米ナスを活用した地域活性化事業【再掲】 (西土佐地域産業振興推進協議会) ・販路開拓、広告宣伝等実施	

分野		令和6年度の取り組み状況 〈数量的に見える形で具体的に記載〉	主な事業主体	定量的な目標 到達点（R6） 実績（直近）	備考 （定性的な目標、課題など）	令和7年度当初予算（取り組み）概要
戦略の柱 施策	アクションプラン					
	主要内容					
林業分野						
1 四万十の山づくり						
1. 長期的視点に立った産地づくり						
【林業:AP1】 (1) ヒノキ産地としての意識の醸成						
○ヒノキ産地としての市民意識の醸成	○「四万十ヒノキの家」での見学・宿泊体験の実施【再掲】 宿泊者:64組、延べ289人 見学者:147人（12月末現在）	四万十市（農林水産課） 森林組合 林業事業体 四万十ヒノキブランド化推進協議会		◆市民、森林所有者へ品質に優れたヒノキ資源が全国有数であり、ヒノキ産地として森林整備の必要性が周知されているとともに、山（林業）や木材への関心が高まっている	○宿泊体験型モデルハウス管理費【再掲】 ・「四万十ヒノキの家」での見学、宿泊体験の実施	【319千円】
○森林所有者の意識の醸成	○四万十ヒノキブランド化推進協議会【再掲】 ・四万十ヒノキについてパンフレット等でPR ・80ヒノキ（大口径ヒノキ）付加価値化の検討等 ・四万十ヒノキ原木の育成・施業方法の検討				○宿泊体験型モデルハウス長寿命化修繕費 ・LED化、空調修繕、防災設備修繕	1,809千円
【林業:AP2】 (2) 計画的な森林管理・経営の促進						
◎森林資源の現状把握とデータ管理の徹底	○森林経営管理制度の運営 ・意向調査業務：（中村）570ha、（西土佐）57.48ha ・林況調査等：（中村）297ha、（西土佐）769.28ha ・保育間伐：（中村）22ha ・作業道開設：（中村）1,800m、（西土佐）1,728m ・幡多地域森づくり推進センターによる集積計画案等の作成、市と林業事業体間の連携調整	四万十市（農林水産課） 林業事業体	◆「森の工場」の認定面積 H30:3,100ha → R6:3,900ha R2:3,987.3ha R3:2,969.0ha R4:1,829.3ha R5:1,481.1ha	◆計画的な森林管理・経営に向け「森の工場」や森林経営計画が整備促進されている	○幡多地域森づくり推進センター負担金 ・集積計画（案）の作成、森林整備（間伐等）事業費の積算、仕様書作成	5,190千円
○経営類型明確化の推進	○市有林台帳、林地台帳（県）データ修正・管理 ・造林補助事業等により市有林台帳を随時更新				○施業をした森林の市有林台帳のデータ修正・管理 ・造林補助事業等により市有林台帳を随時更新	—
○提案型集約化施業の推進	○森林経営計画の作成（12月末現在） ・林業事業体等が森林経営計画を作成し経営類型を明確化 ・計画変更2件（森林組合他1件） ・新規計画2件（森林組合）				○林地台帳整備 ○森林経営計画の作成 ・林業事業体等が森林経営計画を作成し経営類型を明確化	— — —
【林業:AP3】 (3) 循環型森林整備						
★未整備林の整備促進	○森林経営管理制度の運営【再掲】 ・意向調査業務：（中村）570ha、（西土佐）57.48ha ・林況調査等：（中村）297ha、（西土佐）769.28ha ・保育間伐：（中村）22ha ・作業道開設：（中村）1,800m、（西土佐）1,728m ・幡多地域森づくり推進センターによる集積計画案等の作成、市と林業事業体間の連携調整	四万十市（農林水産課） 森林組合 林業事業体	◆「森の工場」の認定面積 H30:3,100ha → R6:3,900ha R2:3,987.3ha R3:2,969.0ha R4:1,829.3ha R5:1,481.1ha	◆計画的な森林管理・経営に向け「森の工場」や森林経営計画が整備促進されている	○幡多地域森づくり推進センター負担金【再掲】 ・集積計画（案）の作成、森林整備（間伐等）事業費の積算、仕様書作成	【5,190千円】
2. 長伐期施業の推進						
【林業:AP4】 (1) 長伐期施業方針の啓発及び普及						
○長伐期施業方針の啓発及び普及		四万十市（農林水産課）		◆長伐期施業方針が広く認知されている		
【林業:AP5】 (2) 長伐期施業技術（ノウハウ）の蓄積と普及						
○市有林におけるモデル林の整備	○森の工場（協働の森づくり事業は別途掲載） ・馬道鼻：搬出間伐7.14ha（5,050千円） ・一ツ葉山1工区：搬出間伐8.50ha（8,665千円）	四万十市（農林水産課） 森林組合 林業事業体 四万十ヒノキブランド化推進協議会		◆長伐期施業に関するノウハウ、技術体系が確立され、普及している	○市有林整備事業	83,856千円
○長伐期施業の講習会等の開催	○協働の森づくり ・三里:下刈り6.53ha（1,598千円） ・三ツ又：下刈り4.23ha（1,085千円）				○森の工場（協働の森づくり事業は別途掲載） ○協働の森づくり	30,072千円 13,702千円

分野		令和6年度の取り組み状況 〈数量的に見える形で具体的に記載〉	主な事業主体	定量的な目標 到達点（R6） 実績（直近）	備考 （定性的な目標、課題など）	令和7年度当初予算（取り組み）概要
戦略の柱	施策					
	アクションプラン					
	主な内容					
林業分野						
3. 適切な皆伐、間伐による原木生産の拡大						
【林業:AP6】 (1) 森林の特性に応じた皆伐、間伐の実践						
○森林の特性に応じた皆伐、間伐の実践	○森の工場（協働の森づくり事業は別途掲載）【再掲】 ・馬道鼻：搬出間伐7.14ha（5,050千円） ・一ツ葉山1工区：搬出間伐8.50ha（8,665千円） ○協働の森づくり【再掲】 ・三里：下刈り6.53ha（1,598千円） ・三ツ又：下刈り4.23ha（1,085千円） ○みどりの環境支援事業 ・切捨間伐：1.58ha（88千円） ・作業道 3,200m（3,200千円）	四万十市（農林水産課） 森林組合 林業事業体	◆原木生産量 H29:71,945㎡ → R6:75,000㎡ H30:55,025㎡ H31:68,396㎡ R2:67,311㎡ R3:62,964㎡		○市有林整備事業【再掲】 【83,856千円】 ○森の工場（協働の森づくり事業は別途掲載）【再掲】 【30,072千円】 ○協働の森づくり【再掲】 【13,702千円】 ○みどりの環境支援事業 3,842千円	
【林業:AP7】 (2) 施業の効率化と低コスト化						
○作業道や林業機械導入への支援 ○林内路網の維持管理	○森の工場（協働の森づくり事業は別途掲載）【再掲】 ・馬道鼻：搬出間伐7.14ha（5,050千円） ・一ツ葉山1工区：搬出間伐8.50ha（8,665千円） ○協働の森づくり【再掲】 ・三里：下刈り6.53ha（1,598千円） ・三ツ又：下刈り4.23ha（1,085千円） ○みどりの環境支援事業 ・切捨間伐：1.58ha（88千円） ・作業道 3,200m（3,200千円） ○森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業 ・森林機能強化:L=568m（作業道整備） ○ふるさと暮らし支援事業補助金（作業道の改良・舗装） ・林道舗装：2路線（延長=90m、800千円） ・作業道舗装：3路線（総延長=110m、1,500千円）	四万十市（農林水産課） 森林組合 林業事業体	◆作業道開設実績延長累計 H29:836,368m → R6:873,000m H30:864,854m H31:888,354m R2:910,829m R3:931,558m R4:963,569m	◆効率的な作業システムによる施業の低コスト化が進んでいる	○市有林整備事業【再掲】 【83,856千円】 ○森の工場（協働の森づくり事業は別途掲載）【再掲】 【30,072千円】 ○協働の森づくり【再掲】 【13,702千円】 ○みどりの環境支援事業【再掲】 【3,842千円】 ○森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業 169千円 ・森林資源利用:5.5ha（広葉樹伐採等） ※市上乗せ分 ○ふるさと暮らし支援事業補助金 3,000千円 ・林道舗装：5路線 ・作業道舗装：2路線	
【林業:AP8】 (3) 低コスト再造林、育林の検討						
○低コスト再造林、育林の実践 ○防護ネットの設置と捕獲の促進	○有害鳥獣捕獲報償金による捕獲 12月現在の捕獲頭数（ ）は計画 シカ 1,351頭(2,400頭)、イノシ 2,426頭(1,700頭)、サル 48頭(50頭) ハクビシ 651頭(400頭)、カワ 411羽（400羽）、ノウサギ 120羽（100羽） ○食害ネット設置 ○国防護柵設置（事業主体：四万十市有害鳥獣被害対策協議会） ・鳥獣被害防止対策総合支援交付金 整備事業15地区 WM柵L=19,860m 電気柵11,600m 29,663千円 推進事業（捕獲檻） 2,000千円	四万十市（農林水産課） 森林組合 林業事業体 四万十市有害鳥獣被害対策協議会	◆シカの捕獲頭数 H30:2,776頭 → R6:4,500頭 R2:2,368頭 R3:2,818頭 R4:2,198頭 R5:1,744頭	◆低コスト再造林、育林のノウハウ、技術体系の確立が進んでいる	○鳥獣被害防除対策事業（防護柵設置ほか） 850千円 ○国防護柵設置（要望額） 47,983千円 （事業主体：四万十市有害鳥獣被害対策協議会） ○有害鳥獣捕獲報償金による捕獲 66,557千円 ・鳥獣被害対策実施隊員報酬（100千円） ・年間計画：シカ 2,200頭 イノシシ 2,500頭 サル 50頭 ハクビシ 650頭 カワウ 100羽 ノウサギ 150羽 ○西部地区射撃場環境整備負担金 4,560千円	
4. 林業事業体や担い手の確保、育成						
【林業:AP9】 (1) 林業事業体及び林業技術者の育成支援						
○林業事業体、林業技術者の育成 ○森林組合の経営力強化	○「緑の雇用」事業 雇用者9人（森林組合6人、林業事業体3人） 新規:2（組合0、事業体2）2年目:2（組合2、事業体0） 3年目:5（森林組合4、林業事業体1） ○林業担い手育成支援事業 緑の雇用事業で新規就業者を雇用している林業事業体に補助金交付 60,000円×12カ月×9人=6,480千円（見込） ○森林組合の経営力強化 市有林整備事業、協働の森づくり事業、森の工場を実施	四万十市（農林水産課） 森林組合 林業事業体 四万十ヒノキブランド推進協議会 幡多林業活性化センター	◆新規林業就業者数 H27-H30平均5人/年 → R6:5人/年 R2:3人/年 R3:1人/年 R4:4人/年 R5:1人/年	◆経営能力の高い森林組合、林業事業体が効率的な生産活動を展開している ◆効率的な林業生産活動を行うことができる優れた担い手が育成されている	○「緑の雇用」事業 ・雇用者10人（森林組合6名、林業事業体4名）予定 ○林業担い手育成支援事業 13,200千円 雇用：60,000円×12カ月×10名 住宅：50,000円×12カ月×10名 ○市有林整備事業【再掲】 【83,856千円】 ○協働の森づくり【再掲】 【30,072千円】 ○環境林整備事業（組合等が県へ直接申請） ・木材生産を目的とせず、森林の環境公益の発揮を目指す森林を「環境林」と定め、切捨て間伐を実施 ○地域おこし協力隊事業（委託型1名） 5,200千円	

分野		令和6年度の取り組み状況 〈数量的に見える形で具体的に記載〉	主な事業主体	定量的な目標 到達点（R6） 実績（直近）	備考 （定性的な目標、課題など）	令和7年度当初予算（取り組み）概要
戦略の柱	施策					
	アクションプラン					
	主要内容					
林業分野						
	【林業：AP10】 (2) 森林保育等の活動グループへのアプローチ					
	○兼業型林業事業者の育成支援	○原木増産推進事業（レンタルタイプ） ・小規模林家が行う林業機械レンタルの補助 林業機械：バックホウ等×2人 ○林地残材の搬出促進（バイオマス証明書発行）【再掲】	四万十市（農林水産課） 兼業型林業事業者		◆林業生産活動を行う多様な担い手が育成されている	○林地残材の搬出促進（バイオマス証明書発行）【再掲】 ○みどりの環境支援事業（レンタルタイプ） ・林業事業者の要望を取りまとめ県へ要望中 968千円
	【林業：AP11】 (3) 自伐林家及び集落組織等の育成					
	○自伐林家及び集落組織等の育成	○森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業 ・中村地域2組織、西土佐地域3組織が森林保全や山村地域活性化などの取り組みを実施 ○林地残材の搬出促進（バイオマス証明書発行）【再掲】	四万十市（農林水産課） 自伐林家等		◆林業生産活動を行う多様な担い手が育成されている	○林地残材の搬出促進（バイオマス証明書発行）【再掲】 ○森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業【再掲】 ※市上乗せ分 【169千円】
2 供給体制の強化						
1. 加工事業体の生産力等強化						
【林業：AP12】 (1) 木材・木工製品の生産の拡大・商品力の強化		主要内容 ○木材・木工製品の生産の拡大・商品力の強化⇒ 連携AP 4				
2. 供給体制の効率化						
【林業：AP13】 (1) 木材流通ネットワークの構築		主要内容 ○木材流通ネットワークの構築⇒ 連携AP 1				
3 市産材の利用促進と販売力の強化						
1. 市産材の利用促進						
【林業：AP14】 (1) 木造住宅の建築促進		主要内容 ○木造住宅建築への支援、○コーディネート組織の設立⇒ 連携AP 1				
【林業：AP15】 (2) 市産材の利用促進及び情報発信の強化		主要内容 ○木造化、木質化への情報発信、普及・啓発の強化、○地元消費拡大フェアの開催⇒ 連携AP 1 ◎産業間連携や広域連携による外商活動等⇒ 連携AP 8				
2. 木質バイオマス利用促進						
【林業：AP16】 (1) 林地残材等の搬出の促進		主要内容 ○林地残材等の搬出の促進⇒ 連携AP 1				
【林業：AP17】 (2) 木質バイオマス利用設備の普及促進		主要内容 ○木質バイオマスボイラー等の普及促進⇒ 連携AP 1				
3. 四万十ヒノキブランドの確立と販売力の強化						
【林業：AP18】 (1) 四万十ヒノキブランドの確立		主要内容 ○四万十ヒノキのブランド化の推進⇒ 連携AP 4				
【林業：AP19】 (2) 四万十ヒノキ製品の生産拡大、商品力の強化		主要内容 ○木材・木工製品の生産の拡大・商品力の強化⇒ 連携AP 4				
【林業：AP20】 (3) 四万十ヒノキ製品の販売力の強化		主要内容 ○四万十ヒノキ製品の販売力の強化⇒ 連携AP 8				
4 健全な森づくり						
1. 人と鳥獣の良好・適切な環境づくり						
【林業：AP21】 (1) 鳥獣被害対策		主要内容 ○防護ネットの設置と捕獲の促進⇒ 林業AP 8				
【林業：AP22】 (2) 捕獲の担い手確保、育成						
○捕獲の担い手の確保、育成		○新規狩猟者の確保（市広報8月号、11月号でPR） ○新規狩猟者免許試験予備講習会受講料補助金（利用者20人） ○新規狩猟者射撃教習受講料補助（利用者5名）	四万十市（農林水産課） 猟友会	◆シカの捕獲頭数 H30:2,776頭 → R6:4,500頭 R2:2,368頭 R3:2,818頭 R4:2,198頭 R5:1,744頭		○新規狩猟者の確保（広報でPR予定） ○新規狩猟者免許試験予備講習会受講料補助金 ・年間利用者数見込み：20人 240千円 ○新規狩猟者射撃教習受講料補助 ・年間利用者数見込み：10人 360千円

分野				令和6年度の取り組み状況 〈数量的に見える形で具体的に記載〉	主な事業主体	定量的な目標 到達点（R6） 実績（直近）	備考 （定性的な目標、課題など）	令和7年度当初予算（取り組み）概要
戦略の柱								
施策								
アクションプラン								
主な内容								
水産業分野								
1 水産資源の回復・生産量UP								
1. 天然水産資源の回復・増殖								
【水産AP1】 (1) 漁場環境、資源量等の調査・研究								
○漁場環境、資源量等の調査・研究 ○調査結果の広報活動				○四万十川漁業振興協議会補助金 ・アユ疾病の疫学調査（10月～3月） ・アユ仔魚調査（10月～3月） ・スジアオノリ及びヒトエグサ育成環境調査（10月～3月）	四万十市（農林水産課） 四万十川漁業振興協議会 漁業協同組合		◆漁場環境や資源量等の継続的な把握と減少要因の分析が進み、漁業者と情報が共有され、天然資源の回復・増殖に向け関係者の連携した取組みが進んでいる	○四万十川漁業振興協議会補助金 ・アユ疾病の疫学調査 ・アユ仔魚調査 ・スジアオノリ及びヒトエグサ育成環境調査 150千円
【水産AP2】 (2) 生育・漁場環境の保全・整備								
○スジアオノリ生育・漁場環境の保全・整備 ○アユの産卵場の再生と保全管理 ○イセエビ漁礁設置による漁場整備				○アオサノリ漁場整備支援（四万十川下流漁業協同組合） ・漁場整備等 ○四万十川自然再生事業（国土交通省・四万十川自然再生協議会による整備） アユの産卵場整備や汽水域の浅場再生などを行い、モニタリング調査を実施 ○資源保護や漁獲量確保、河川環境保全のための取組（四万十川漁業振興協議会） ・新組織の設立に向けた要望活動	四万十市（農林水産課） 四万十川自然再生協議会 漁業協同組合	◆内水面漁業漁獲量 H29:49t → R6:50t H31:29t R2:36t R3:47t R4:41t ◆海面漁業漁獲量 H29:14t → R6:15t H30:13t H31～R5：－t ※市町村別統計廃止		○国土交通省・四万十川自然再生協議会による整備 ・四万十川自然再生事業 アユの瀬づくり、魚のゆりかごづくりを推進 ○アオサノリ漁場整備支援 （実施主体：四万十川下流漁業協同組合） ・漁場整備等 － 1,000千円
2. 栽培漁業等の推進								
【水産AP3】 (1) 効果的な種苗放流の推進								
○内水面資源の種苗放流 ○沿岸資源の種苗放流				○稚アユ放流補助金 ・四万十川中央漁業協同組合：稚アユ977kg ・四万十川西部漁業協同組合：稚アユ764kg ○稚アユ等放流（独自） ・四万十川下流漁業協同組合：稚アユ40kg、うなぎ31.82kg ・四万十川中央漁業協同組合：うなぎ50kg ・四万十川西部漁業協同組合：アメゴ20kg、うなぎ113.65kg	四万十市（農林水産課） 漁業協同組合	◆内水面・沿岸資源の種苗放流 R6:維持		○稚アユ等放流補助金 他 （実施主体：四万十川中央漁業協同組合） ・稚アユ放流、ツガニ放流、うなぎ放流 （実施主体：四万十川西部漁業協同組合） ・稚アユ放流、ツガニ放流、アメゴ放流、うなぎ放流 2,500千円 1,256千円
【水産AP4】 (2) アオサの生産拡大								
○区画あたりの生産拡大 ○新たな漁場の開拓と新規参入の促進 ○生産・品質管理の徹底				○四万十川漁業振興協議会補助金【再掲】 ・ヒトエグサ漁場環境調査（水温、塩分の測定） ○生産工程の均一化と品質管理（四万十川下流漁業協同組合）【再掲】 ・生産工程マニュアルによるアサ、スジアオノリの生産工程の均一化と品質管理を継続	四万十市（農林水産課） 四万十川漁業振興協議会 四万十川下流漁業協同組合	◆内水面漁業漁獲量 H29:49t → R6:50t H30:37t H31:29t R2:36t	◆安定した生産量と品質が確保され、入札業者の増加と高値安定が確保されている	○四万十川漁業振興協議会補助金【再掲】 ・漁場環境調査（水温、塩分の計測） 【150千円】

分野		令和6年度の取り組み状況 〈数量的に見える形で具体的に記載〉	主な事業主体	定量的な目標 到達点（R6） 実績（直近）	備考 （定性的な目標、課題など）	令和7年度当初予算（取り組み）概要
戦略の柱	施策					
	アクションプラン					
	主要内容					
水産業分野						
	【水産AP5】 (3)スジアオノリの栽培技術の研究などへの支援					
		○スジアオノリの栽培技術への支援（助言など）	○スジアオノリ陸上養殖の調査・研究 ○実施場所や補助事業等の検討 ○四万十産川ノリ陸上養殖場整備事業 ・地域経済循環創造事業費補助金：20,481千円 ○しまんと海藻エコイノベーション共創拠点 ・四万十川河口域環境調査 ・藻類等の陸上養殖技術の研究 ・藻類陸上養殖場への支援 ・市民教育の改革（アントレプレナー教育、伴奏支援等）	四万十市（農林水産課） 四万十川下流漁業協同組合 民間事業者 しまんと海藻エコイノベーション共創拠点（高知大学）		◆スジアオノリの自然栽培技術が向上し、安定した生産が行われている
	3. 地域に根差した資源管理の仕組みづくり					
	【水産AP6】 (1)漁場利用の新たなルールづくり					
		○漁場利用のための新たなルールづくり	○エビ資源保護 （実施主体：高知県内水面漁場管理委員会） ・県内全河川でテナガエビ類採捕禁止（9～3月）（広報掲載）	四万十市（農林水産課） 四万十川漁業振興協議会		◆市民、漁業者の意識と機運が高まり、資源管理の取組みが進んでいる
	【水産AP7】 (2)資源保護のための情報発信の強化					
		○資源保護のための情報発信の強化	○禁漁期間の周知と資源保護の啓発 ・密漁防止ポスター掲示 ・各種禁漁期間の周知（広報掲載）	四万十市（農林水産課） 漁業協同組合 高南幡東漁業秩序を守る会（海面漁業）		◆市民、漁業者の意識と機運が高まり、資源管理の取組みが進んでいる
	4. 担い手の確保、育成					
	【水産AP8】 (1)新規就業者のための研修・フォローアップ					
		○講習会、研修会の開催 ○受入漁家による研修制度の拡充	○しまんと海藻エコイノベーション共創拠点 ・藻類陸上養殖場への支援 ・市民教育の改革（アントレプレナー教育、伴奏支援等）	四万十市（農林水産課） しまんと海藻エコイノベーション共創拠点（高知大学） 漁業協同組合	◆漁業体験研修の受講者数 R2～R6の5年間で3人 R2：0人 R3：0人	
2 水産物の加工、販売促進						
1. 水産物の高付加価値化の推進						
【水産AP9】 (1)今ある商品の磨き上げ	主要内容 ○品質管理の向上、○商品力の強化⇒ 連携AP5					
	【水産AP10】 (2)新たな商品開発 ○未利用資源等の掘起しと利活用⇒ 連携AP5、連携AP10 ○新たな商品の企画・開発の支援⇒ 連携AP5					
2. 販売力の強化と販路拡大						
【水産AP11】 (1)漁協の販売力の強化	主要内容 ○漁協の販売機能の強化⇒ 連携AP1、連携AP8					
	【水産AP12】 (2)ブランド力の強化と販路拡大 ○ブランディングの構築と発信、◎産業間連携や広域連携による外商活動等、○商談会等販路開拓・拡大の支援⇒ 連携AP8 ○地元消費拡大フェアの開催⇒ 連携AP1					
3. 魚食文化の磨き上げと発信						
【水産AP13】 (1)魚食文化の磨き上げ	主要内容 ○魚食文化の磨き上げ⇒ 連携AP10					
	【水産AP14】 (2)魚食文化の発信強化 ○グルメイベント等での魚食文化の発信⇒ 連携AP11					
3 水産資源を活用した交流の拡大						
1. 体験交流の推進						
【水産AP15】 (1)魅力ある体験商品づくり						
	○体験商品の磨き上げ		四万十市 （農林水産課・産業建設課・観光商工課） 漁業協同組合 観光協会		◆自然や漁業への関心と資源保護に対する市民意識が向上している	

分野				令和6年度の取り組み状況 〈数量的に見える形で具体的に記載〉	主な事業主体	定量的な目標 到達点（R6） 実績（直近）	備考 （定性的な目標、課題など）	令和7年度当初予算（取り組み）概要	
戦略の柱									
施策									
アクションプラン									
主な内容									
水産業分野									
【水産AP16】 (2) 体験教室等の開催									
○体験教室の開催				○川漁体験学習等（四万十川中央漁業協同組合、四万十川西部漁業協同組合） ・稚アユ放流（4月：具同小60名、西土佐小9名、5月：蕨岡小17名） ・アユしゃくり漁体験（7月：大用小23名） ・アユ投網漁体験（9月：中村西中67名） ・アユつかみどり体験（9月：中村幼稚園100名） ○四万十川ガキ体験（7月21日） 主催：四万十の日実行委員会 対象：小学生、保護者（30名参加） 体験内容：カヌー、サップでの川下り ○水辺の楽校（5～10月） 主催：四万十の日実行委員会 対象：中村小、大用小、具同小、東中筋小、西土佐小、中村南小、下田小、八束小、 蕨岡小、東山小、竹島小の3、4、6年生 （301名参加） 体験内容：水生生物採取、清流度調査、四万十川についての座学 ○親子川漁体験（7月27日） 主催：四万十の日実行委員会 対象：小学生親子（62名参加） 講師：四万十川中央漁協組合 体験内容：投網、アユつかみどり 提供アユ：合計40kg（四万十川中央漁協組合） ○川漁師体験（8月4日、18日） 主催：四万十の日実行委員会 対象：小学生、保護者（40名参加） 講師：やかた舟さこや 体験内容：しば漬け漁、櫓漕ぎ	四万十市 （農林水産課・産業建設課） 漁業協同組合 四万十川漁業振興協議会 四万十の日実行委員会		◆自然や漁業への関心と資源保護に対する市民意識が向上している	○種苗放流体験 （実施主体：四万十川漁業振興協議会） ・各漁業協同組合の種苗放流時に実施 ○四万十の日実行委員会補助金（対象事業のみ） ・水辺の楽校 150千円 ・四万十川ガキ体験（カヌー、サップ） 223千円 ・親子川漁体験 96千円 ・川漁師体験事業 164千円 （しば漬け漁、櫓漕ぎ体験）	— <

分野				令和6年度の取り組み状況 〈数量的に見える形で具体的に記載〉	主な事業主体	定量的な目標 到達点（R6） 実績（直近）	備考 （定性的な目標、課題など）	令和7年度当初予算（取り組み）概要
戦略の柱								
施策								
アクションプラン								
主な内容								
商工業分野								
				・映画上映会（令和6年5月1日） ・夜カフェ（令和6年5月2日） ・まるごとしまんとびあ（令和6年5月3日） ・山崎まさよしスペシャルライブ（令和6年5月4日） ・映画上映会（令和6年5月5日） ・施設開放事業　しまんとホールひとりじめ（令和6年5月6日） ・梶原徹也のリズムあそびワークショップ（令和6年7月13日） ・ぐるっと！しまんとびあ探検隊（令和6年7月30日） ・市民大学 第1回　伊沢拓司（令和6年7月21日） 第2回　谷本道哉（令和6年8月4日） 第3回　木山裕策（令和6年12月14日） ・救急フェア×しまんとびあ 矢守教授講演会（令和6年8月31日） 出張！みんなの町の消防隊（令和6年9月7日） ・しまんとびあシネマ倶楽部『PERFECT DAYS』（令和6年9月23日） ・しまんとびあカルチャー倶楽部（年10講座（24コマ）） ・しまんとびあ　ぴあチャンネル（YouTube） ・施設開放事業　しまんとホールひとりじめ（令和6年10月19日～22日） ・しまんとびあシネマ倶楽部（令和6年12月1日）（令和7年1月3日） ・学校アウトリーチ（バリトン森翔悟コンサート）（令和7年1月20日～23日） ・実践！ボランティア講座（令和7年1月25日～26日） ・しまんとびあプレシャス・コンサート　三山ひろし（令和7年2月24日） ・しまんとびあバラエティタイム（落語　桂宮治）（令和7年3月20日） ・しまんとびあ　ぴあフェスティバル（令和7年3月23日） ・しまんとびあカルチャー倶楽部（年10講座（24コマ）） ・しまんとびあ　ぴあチャンネル（YouTube） ・市民企画後援事業 ・しまんとびあ2階展示スペース　みちよってひろば　（随時） その他貸館に関する業務 市主催・共催事業 ・第20回四万十市文化祭（令和6年7月～令和7年1月） ・四万十川国際音楽祭中村交響楽団定期演奏会（令和6年8月18日） ・四万十川国際音楽祭　キュッヒルコンサート（令和6年10月12日） ・公共ホール現代ダンス活性化事業（令和6年10月24日～26日） ・美術展（令和6年11月15日～28日） ・四万十川国際音楽祭　Jr. 弦楽アンサンブル（令和7年3月9日）				・四万十市芸術祭（旧文化祭） ・国民文化祭2026準備事業（川柳の祭典、第九特別公演）
【商工AP11】 (2) 商店街の機能向上								
			○中心商店街活性化協議会の開催 ○商店街空間整備 ○情報発信機能の充実	○中心商店街活性化協議会 開催日：11月19日 ・中心商店街活性化計画に基づく事業の進捗状況等 ○中心市街地にぎわい拠点施設維持管理事業【再掲】 （実施主体：四万十にぎわい商店株式会社） ○地域おこし協力隊事業【再掲】 ・商店街リーダー育成、啓発 リーダーシップセミナー開催（12月、1月、2月） マーケティングセミナー開催（1月、2月）	四万十市 （観光商工課・産業建設課・まちづくり課） 商工会議所・商工会 商店街振興組合 事業者	◆商店街通行者数（平日） H27～H30平均：5,338人/日 →R6：6,200人/日 R2：5,824人/日 R3：4,743人/日 R4：4,359人/日 R5：5,859人/日		○中心市街地にぎわい拠点施設維持管理事業【再掲】 ・公共部分（公園・トイレ）に係る維持管理費を補助 ○地域おこし協力隊経費【再掲】 （中心市街地活性化1名）

分野		令和6年度の取り組み状況 〈数量的に見える形で具体的に記載〉	主な事業主体	定量的な目標 到達点（R6） 実績（直近）	備考 （定性的な目標、課題など）	令和7年度当初予算（取り組み）概要	
戦略の柱							
施策							
アクションプラン							
主な内容							
商工業分野							
	【商工AP12】 (3) 日常の賑わいにつながる仕組みづくり						
	○イベント開催等活性化の仕組みづくり	○商店街等活性化事業（モデル事業）【再掲】 土佐中村一條公家行列「藤まつり」開催の支援（5月） （実施主体：中村商工会議所）	四万十市 （観光商工課・産業建設課 商工会議所・商工会 商店街振興組合	◆商店街通行者数（平日） H27～H30平均：5,338人/日 →R6：6,200人/日 R2：5,824人/日 R3：4,743人/日 R4：4,359人/日 R5：5,859人/日 ◆商店街の新規出店数 R6：10件/5年 R2：5件/年 R3：1件/年 R4：4件/年 R5：4件/年		○商店街活性化モデル事業【再掲】 【900千円】 ○商店街活性化補助金（各商店街振興組合）【再掲】 【500千円】 ○商店街等振興計画事業費補助金 ・チャレンジショップ事業補助金 4,941千円 ○よさこい四万十事業費補助【再掲】 【1,500千円】 ○中心市街地にぎわい拠点施設維持管理事業【再掲】 【2,755千円】 ・公共部分（公園・トイレ）に係る維持管理費を補助	
	○個店のサービス向上	○よさこい四万十開催（9月）【再掲】 ○商店街等活性化事業【再掲】 商店街振興組合イベント（納涼祭等）開催支援（8月） （実施主体：天神橋・東下町・中村一条通 各商店街振興組合）					
	○個性が光る店舗の集積	○商店街等振興計画推進事業費補助金 チャレンジショップ事業（実施主体：天神橋商店街振興組合） ・チャレンジャー1名：5月卒業（サービス業）→5月開業 ・チャレンジャー1名：11月開始（サービス業） ・チャレンジャー募集、運営委員会開催（毎月） ○中心市街地にぎわい拠点施設維持管理事業【再掲】 （実施主体：四万十にぎわい商店株式会社） ○中心商店街等活性化事業【再掲】 ・拠点施設を核とした商店街活性化の協議（毎月） ・商店街広報誌作成 ・活性化イベント はれのばマルシェ（4月、6月、8月、10月、12月、2月予定） （実施主体：四万十にぎわい商店株式会社） ・活性化イベント 中心商店街スタンプラリー（11月） （実施主体：四万十市商店街振興組合連合会女性部）					
	【商工AP13】 (4) 空き店舗対策						
	○空き店舗情報の発信強化とマッチング機会の提供	○空き店舗対策事業 ・空き店舗改修支援 申請件数：0件（1月末時点） ・商店街店舗兼住宅改修支援（改修費支援） 申請件数：0件（1月末時点）					四万十市（観光商工課・産業建設課） 商工会議所・商工会 商店街振興組合
○空き店舗改修等の支援	○商店街空き店舗調査 ・市内7商店街振興組合地域の空き店舗調査 ※2月実施予定						
2. 創業や経営革新への支援強化							
	【商工AP14】 (1) 経営指導などサポート体制の強化						
	○経営指導などサポート体制の強化	○商工業者経営改善普及事業（中村商工会議所、西土佐商工会） 商工会議所、商工会、金融機関等関係機関が連携し、経営についてトータルサポート ○先端設備等導入計画の認定 ・認定件数7件、変更認定4件（1月末時点） ○中小企業振興資金保証料補給 ○経営改善計画策定等補助金 実績：2件 40千円（小売・卸売）	四万十市 （観光商工課・産業建設課） 商工会議所・商工会	◆創業に関する相談件数 H30:30件/年 → R6:45件/年 R2:30件/年 R3:42件/年 R4:36件/年 R5:28件/年		○商工業者経営改善普及事業（実施主体：中村商工会議所、西土佐商工会） ○中小企業振興資金保証料補給 335千円 ○中小企業振興資金利子・保証料補給 9,805千円 （R2・R3実行分）【新型コロナ対策】 ○経営改善計画策定等補助金 500千円	
	【商工AP15】 (2) 創業や経営革新に意欲ある事業者（人材）の育成、スキルアップ						
	○事業者の育成、スキルアップ	○商店街等振興計画推進事業費補助金【再掲】 チャレンジショップ事業（実施主体：天神橋商店街振興組合） ・チャレンジャー1名：5月卒業（サービス業）→5月開業 ・チャレンジャー1名：11月開始（サービス業） ・チャレンジャー募集、運営委員会開催（毎月）	四万十市 （観光商工課・産業建設課） 商工会議所・商工会	◆創業に関する相談件数 H30:30件/年 → R6:45件/年 R2:30件/年 R3:42件/年 R4:36件/年 R5:28件/年		○チャレンジショップ事業補助金【再掲】 【4,941千円】	

分野		令和6年度の取り組み状況 〈数量的に見える形で具体的に記載〉	主な事業主体	定量的な目標 到達点（R6） 実績（直近）	備考 （定性的な目標、課題など）	令和7年度当初予算（取り組み）概要
戦略の柱	施策					
	アクションプラン					
	主な内容					
商工業分野						
3 中山間地域の商業機能の確保						
1. 小さな（田舎）ビジネスの推進						
【商工AP16】 (1) 集落、小グループが取り組むコミュニティビジネス等の発掘、育成		主な内容 ○事業者、地域等の提案を拾い上げる体制づくり、○地域ならではのアイデア、資源を活かした商品開発⇒ 連携AP 6				
【商工AP17】 (2) 地域の人、もの、コトの発信		主な内容 ◎地域の人、もの、コトの発信⇒ 連携AP 8				
【商工AP18】 (3) ビジネスの拠点づくり		主な内容 ○拠点ビジネスの推進⇒ 連携AP 2 ◎道の駅「よって西土佐」の機能拡充⇒ 連携AP 2、連携AP 8 ★四万十牛を核とした西土佐地域の産業振興⇒ 連携AP 3				
4 企業誘致						
1. 情報通信関連産業の誘致促進						
【商工AP19】 (1) 誘致に向けたリサーチ						
○誘致にかかるリサーチ		○既誘致企業との意見交換 ○先進自治体の事例収集 ○企業誘致対策 2月 誘致企業訪問（東京） ○企業誘致に係る基本方針の検討・策定	四万十市 （観光商工課）	◆シェアオフィスへの誘致企業数 R6：2社/5年 R2：0社 R3：0社 R4：0社 R5：0社		○企業誘致対策 ・県と連携した誘致企業の情報収集、77°ローチ 誘致企業訪問旅費（東京） 430千円
【商工AP20】 (2) 誘致活動の推進						
○県と連動した誘致活動の推進 ○支援メニューの創設・受入体制づくり		○誘致企業の雇用の促進 誘致企業：ソウルドアウト（株） 立地促進事業費補助金（2,250千円） ○企業誘致対策【再掲】 2月 誘致企業訪問（東京）	四万十市 （観光商工課・農林水産課）	◆シェアオフィスへの誘致企業数 R6：2社/5年 R2：0社 R3：0社 R4：0社 R5：0社 ◆次世代施設園芸等への誘致企業数 H30：0社 → R6：1社 R2：0社 R3：0社 R4：0社 R5：0社 ◆既誘致企業での雇用者数 R6：80名/5年 R2：42人 R2：53人 R4：59人 R5：38人		○企業誘致対策【再掲】 ・県と連携した誘致企業の情報収集、77°ローチ 誘致企業訪問旅費（東京） 【430千円】
【商工AP21】 (3) 遊休施設等を利活用したシェアオフィス等の整備						
○シェアオフィス等の整備		○企業誘致対策 ・企業誘致勉強会へ参加（シェアオフィス等） ・シェアオフィス整備の情報収集及び検討	四万十市（観光商工課）	◆シェアオフィスへの誘致企業数 R6：2社/5年 R2：0社 R3：0社 R4：0社 R5：0社		

分野	戦略の柱		令和6年度の取り組み状況 （数量的に見える形で具体的に記載）	主な事業主体	定量的な目標 到達点（R6） 実績（直近）	備考 （定性的な目標、課題など）	令和7年度当初予算（取り組み）概要
	施策						
	アクションプラン						
	主要内容						
観光分野							
1 滞在型の観光地づくり							
1. 地域の観光資源、フィールドを活かした滞在型の観光商品づくり							
【観光AP1】 (1)観光リサーチの徹底			主要内容 ○観光マーケティングリサーチ⇒連携AP7				
【観光AP2】 (2)今ある観光商品の磨き上げ			○西土佐地域地産地消推進協議会（6、7、9、11、2月）				
【観光AP3】 (3)新たな観光商品づくり			主要内容 ○観光商品づくり研修会等の開催、○異業種連携の強化⇒連携AP7				
【観光AP4】 (4)食の魅力を活かした観光振興			主要内容 ○食の魅力を活かした観光地づくり、★自然・体験型の観光と歴史や文化、食とが一体となった観光プログラムの造成・発信及び販売○食の発信・普及イベント等の開催⇒連携AP11 ★四万十牛を核とした西土佐地域の産業振興⇒連携AP3				
2. 広域連携による周遊観光の推進							
【観光AP5】 (1)広域連携による周遊観光の推進			主要内容 ○周遊観光プランの造成・発信及び販売⇒連携AP7 ○広域連携によるキャンペーンの展開⇒連携AP9				
2 観光商品の外商の推進							
1. 観光商品のセールス及び情報発信の強化							
【観光AP6】 (1)観光商品のセールス強化			主要内容 ○営業力のある人材、組織の育成、○旅行会社への営業活動の促進、○旅行商品商談会等への出展、○海外への営業活動の促進⇒連携AP9				
【観光AP7】 (2)広報・プロモーションの強化			主要内容 ○多様な媒体を活用した広報活動の強化、○ターゲットに合わせたプロモーションの展開⇒連携AP9 ○一元的な情報発信の促進⇒連携AP8、連携AP9、連携AP11 ◎産業間連携や広域連携による誘客（PR）活動⇒連携AP9、連携AP11				
3 おもてなしの向上							
1. おもてなし環境の整備							
【観光AP8】 (1)四万十川流域観光の拠点施設の整備、機能強化							
○拠点施設の拡充、機能強化			○入田ヤナギ林整備 ・草刈、刈草収集、焼却、木取り（7～9月） ・耕運、木取り、周辺整備、草刈り、遊歩道整備（10～2月） ○観光拠点施設整備 ・四万十川学遊館 バックヤード空調修繕業務(1,300千円) 多目的室空調修繕業務(1,172千円) 雨樋等修繕業務(796千円) ・いやしの里 ★駐車場舗装工事(14,377千円) 露天濾過ポンプバルブ修繕業務等(10,590千円) ★外国人観光客向け看板設置(1,298千円) ・かわらっこ ★外国人観光客向け看板設置、電子決済機器設備等(1,114千円)	四万十市（観光商工課） 観光協会	◆公設観光施設等利用者数 H30:162,247人 → R6:170,000人 R2:128,018人 R3:147,689人 R4:179,732人 R5:176,448人		○観光振興推進総合支援 18,412千円 ○四万十いやしの里管理運営 25,733千円 ○四万十川学遊館管理運営 26,139千円 ○かわらっこ管理運営 5,969千円 ○入田ヤナギ林整備 4,894千円 ○キャンプ場ほか観光公衆トイレ管理運営 6,560千円 ○四万十パーク管理 3,571千円 ○カヌー館関連施設等管理運営 6,353千円
【観光AP9】 (2)二次交通の充実							
○二次交通の運行形態の見直し・拡充と情報発信			○四万十川バス運行(中村駅⇄沈下橋⇄江川崎駅) ・年間131日運行〔4～11月・3月の土・日・祝及びGW（4/27～5/6）、夏休み（7/20～8/31）、春休み（3/15～3/31）〕 ○市内循環バス（しまんとあかも号）の運行 ・年間131日運行〔4～11月・3月の土・日・祝及びGW（4/27～5/6）、夏休み（7/20～8/31）、春休み（3/15～3/31）〕 ・中村駅⇒宿泊施設⇒佐田沈下橋⇒郷土博物館⇒学遊館⇒中村駅 ○しまんと・あしずり号 ・GW、夏休み、春休み、土日祝日等の279日間運行（1日コース164日、半日コース136日）（四万十市→土佐清水市→大月町→宿毛市→四万十市） ○予土県境地域連携実行委員会【再掲】 予土県境サイクルツーリズムの推進 ・サイクリングの魅力情報発信、サイクルトレイン事業 ・予土まちサイクルデジタルスタンプラリー（7月～12月） よって西土佐コース：自然・観光・穴場スポットの設定 ・参加延べ人数：989名(前年度比約10%増)	四万十市（観光商工課） 観光協会 幡多広域観光協議会	◆二次交通利用者数 H30:6,164人 H31:6,513人 → R6:10,000人 R2:3,135人 R3:2,374人 R4:3,372人 R5:4,715人		○四万十川バス運行(観光振興推進総合支援) 6,539千円 ・中村駅～江川崎駅間 GW、夏・春休み、土日祝日の138日間（1日1往復）運行 ○循環周遊バス（しまんとトロリーバス）の運行 6,596千円 （観光振興推進総合支援） ・市街地及び郷土博物館、周辺観光地を結ぶ周遊 GW、夏・春休み、土日祝日の138日間(1日4便)運行 ○周遊観光バスしまんと・あしずり号運行 2,500千円 （事業主体：幡多広域観光協議会） ・GW、夏休み、春休み、土日祝日等の運行 （四万十市→土佐清水市→大月町→宿毛市→四万十市） ○おもてなしタクシーの運行（通年） —

分野			令和6年度の取り組み状況 〈数量的に見える形で具体的に記載〉	主な事業主体	定量的な目標 到達点（R6） 実績（直近）	備考 （定性的な目標、課題など）	令和7年度当初予算（取り組み）概要
戦略の柱							
施策							
アクションプラン							
主な内容							
観光分野							
			・インバウンド関連 団体旅行商談会（台湾 1回9社） ・インバウンド関連 旅行会社向けセミナー（マレーシア 1回30社） ・インバウンド関連 観光PRキャラバン（シンガポール 1回） ・観光PRキャラバン（4回） ・ツーリズムEXPOジャパン（東京） ・フィッシングショーOSAKA2025（大阪） ・GSTCトレーニング受講 ・宿泊アンケート調査				
		【観光AP14】 (2)異業種との交流・連携の促進	主な内容 ○異業種連携の強化⇒ 連携AP7				
		2. 観光人材の育成、確保					
		【観光AP15】 (1)地域の観光リーダーの育成					
		○地域のキーマンの発掘、育成	○四万十市体験型観光受入研究会 ・田舎暮らし体験受け入れ 5月 常翔啓光学園中学校 32人 6月 開成高等学校 55人 11月 台湾教育旅行視察 8人 3月 豪州・新西蘭・太平洋島嶼国 19人 ・令和6年度四万十市体験型観光受入研究会総会開催（5月） ・受入家庭数(令和7年1月)：35軒	四万十市（観光商工課・関係課） 観光協会 幡多広域観光協議会 四万十市体験型観光受入研究会	◆教育旅行受入家庭数 H29:49軒→ R6:65軒 R2:52軒 R3:52軒 R4:13軒 R5:31軒	◆地域で核となる観光人材が育成されている	○四万十市体験型観光受入研究会【再掲】 - ○幡多広域観光協議会負担金【再掲】 【10,718千円】 （実施主体：幡多広域観光協議会） 「幡多広域観光振興計画」に基づき、高知県の自然・体験型観光キャンペーンと連携した事業を展開
		【観光AP16】 (2)将来の担い手の発掘・育成					
		○インストラクター、ガイドの育成 ○ボランティア等の受け入れ	○四万十市体験型観光受入研究会【再掲】 ・田舎暮らし体験受け入れ 5月 常翔啓光学園中学校 32人 6月 開成高等学校 55人 11月 台湾教育旅行視察 8人 3月 豪州・新西蘭・太平洋島嶼国 19人 ・令和6年度四万十市体験型観光受入研究会総会開催（5月） ・受入家庭数(令和7年1月)：35軒 ○バリアフリー観光セミナー（6月）【再掲】 ・講師による障害がある方への接し方、誘導方法を学ぶセミナー（14団体、22名） ○観光ガイドミーティング(4回) ・LOILOIしまんとミーティング（4月、6月、9月、11月） ○トンボ公園整備ボランティア【再掲】 ・花菖蒲整備（5月→雨天中止） ・スイレン根抜き、草刈り作業（1月、2回）	四万十市（観光商工課） 観光協会 幡多広域観光協議会 四万十市体験型観光受入研究会		◆観光人材の育成、レベルアップが図られている ◆観光の担い手確保につながっている	○四万十市体験型観光受入研究会【再掲】 - ○幡多広域観光協議会負担金【再掲】 【10,718千円】 （実施主体：幡多広域観光協議会） 「幡多広域観光振興計画」に基づき、高知県の自然・体験型観光キャンペーンと連携した事業を展開 ○四万十川を活用した魅力向上事業補助金【再掲】 【1,450千円】 （実施主体：四万十市観光振興連絡会議） ・花と食をテーマとした観光イベント（四万十川花紀行等）の開催、検証等 ○地域おこし協力隊経費（観光振興1名）【再掲】 【5,095千円】